



SysReturn Pro

Ver10. Client

ユーザーマニュアル

マニュアルについて

SysReturn Pro Ver10 client ユーザーマニュアルは、SysReturn Pro Ver10 client のインストールとその機能について説明しています。

対象

このマニュアルは、SysReturn Pro Ver10 client をインストールし、SysReturn Pro Ver10 client をセットアップする必要がある人を対象としています。(以下「SysReturn」).

ドキュメントのフィードバック

ドキュメントを改善するためのご提案を歓迎しております。ご意見やご指摘のコメントがある場合は、service@gfj.co.jp までご連絡ください。

技術サポートと育成リソース

マニュアル最新版をご希望の方は、弊社に連絡ください。テクニカルサポート関連のリクエストは、service@gfj.co.jp に送信してください。

ご注意

ご使用の前に本製品の使用許諾書をお読みください。

- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標です。
- その他記載されている製品名などは、各社の登録商標または商標です。
- 本製品の内容、および本書の記載事項は、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本書の内容や本製品について許可なく複製、転載することは禁じられています。
- 本製品および本書の一部または全部を第三者に譲渡、貸与、内容の変更をすることはできません。
- 本製品の使用に起因するいかなる事態に対しても、弊社は一切の責任を負いません。
- 本製品はすべてのPC機種対応の保証はできません。

※「 [第三章インストール前の準備](#) 」の注意事項もご確認ください

目次

1. 第一章 機能の概要	2
2. 第二章 システム要件	4
3. 第三章 インストール前の準備	5
4. 第四章 基本用語	8
6. 第六章 Windows インターフェイスの操作	16
6.1、ホーム	17
6.2、追加	19
6.3、復元	20
6.4、削除	21
6.5、復元ポイントのロック	22
6.6、スタンドアロン環境	23
6.7、設定	25
6.7.1. 電源起動復元モードの設定	26
6.7.2. コンソールへの接続	27
6.7.3. ネットワーク設定	28
6.7.4. ドメインへの参加/終了	29
6.7.5. ブートメニューの設定	30
6.7.6. ブートメニューホットキーの設定	31
6.7.7. デバイスの制御	31
6.7.8. インストールモード設定	32
6.8、その他	35
6.9、削除	40
7. 第七章 DOS インターフェイスの操作	42
7.1、DOS インターフェイスに入る	42
7.2、継続	43
7.3、復元	44
7.4、復元先	44
7.5、復元ポイントの追加	45
7.6、削除	46
7.7、デフラグ	47
7.8、ベースポイントの更新	47

7.9、設定	49
7.10、アンインストール	50
8. 第八章 ネット同期コピー	52
8.1 . ネット同期コピー機能の概要	52
8.2 . ネット同期コピー	55
8.3 .ローカル バックアップ	79
8.4. ローカルリカバリ	84
8.6. ローカルネットワーク設定を変更	94
8.7. ヘルプツールの説明	96
9. 付 録	97
9.1 製品説明ツールの使用説明の復元	97
9.1.1 パスワードを忘れた場合(Acmpwd.exe)	98
10. よくある質問	99

1. 第一章 機能の概要

コンピュータを頻繁に使用する場合、様々なハードウェアとソフトウェアの障害に悩まされることがあります。誤操作によるデータ損失、ハッキングによるシステムの麻痺、不適切な操作によるシステム異常、未知のソフトウェアのインストールによる大量のハードドライブの無駄遣いなどの問題があります。

今、あなたがこの製品をインストールした場合、再びこれらの問題について無力感を感じることはありません。「復元」機能を使用するだけで、効率的で安全なシステム環境が実現します。リロードシステムの手間を回避し、時間を大幅に節約し、生産性を向上させ、安心感が得られます。

製品の特徴：

- **リアルタイム復元：**

この製品の助けを借りて、障害のあるシステムを迅速に健全な状態に復元することができます。復元プロセス全体は、数十秒しかかかりません。

- **真のマルチ復元ポイント：**

必要に応じて、1 日前、1 ヶ月前など、任意の復元ポイントにハード ディスクを復元できます。保存した復元ポイントは、異なる復元ポイント間で自由に切り替えることができます。以前に保存したハード ディスクの状態を失う心配はありません。

- **複数のセクタへのサポート：**

一つハードディスクの複数のセクタとオペレーティング システムを選択して保護できます

- **ハードドライブ空き容量の監視：**

ハードディスクの使用状況はいつでも確認でき、空き領域が一定の割合を下回ると、自

動的にプロンプトを表示します。

- **容易にインストール:**

純粋なソフトウェアのインストール、プラグインカードなし、ハードディスクの再シャーディング、オペレーティングシステムの再インストールは不要です。インストール後すぐに使用でき、ハードドライブのデータに全く影響を与えません。

- **簡単操作;**

コンピュータの使用方法を習得したばかりの方でも使いやすい Windows のグラフィカルインターフェイスのため簡単に操作することができます。

- **最小のフットプリント:**

この製品は高度なデータ圧縮技術を使用しているため、コンピュータがバックアップ領域として多くのハードディスク容量を使用する必要はありません。

2. 第二章 システム要件

一、ハードウェア環境

構成	基本構成	推奨構成
CPU	Intel Celeron 733 以上 或は 互換性のある追加 CPU	Intel Celeron デュアルコア 2.0Hz 以上
ハード ドライブ	少なくとも 20GB 以上の空き容量	少なくとも 50 GB 以上の空き容量
RAM	4GB 以上	8GB 以上
NIC	100M/1000M	
グラフィックカード	オプション	
サウンドカード	オプション	
マザーボード	従来の BOIS マザーボードと EFI マザーボードをサポート	

二、ソフトウェア環境

オペレーティングシステム	Windows 11 32BIT/64BIT Windows 10 32BIT/64BIT Windows 8 32BIT/64BIT Windows 7 32BIT/64BIT SP1 (SysReturn8.0 より前のサポート)
ネットワーク構成	TCP/IP 通信プロトコルが必要 100MB 以上のネットワーク帯域幅
ブラウザ	IE11.0 以上

3. 第三章 インストール前の準備

3-1 インストールの前に

動作環境にお客様のコンピュータが対応しているかご確認ください。

このソフトウェアを運用した結果の不具合、データ損失、損害等については、弊社では一切その責任を負いません。御了承下さい。

3-2 動作環境のご注意

1. ハードディスクが複数台接続されている場合、保護出来るのはプライマリマスタのハードディスクのみ保護します。2 台目以降は保護できません。デュアルブートには対応しておりません。
2. ハードディスクを暗号化してご使用されている場合には利用できません。
3. MBR を書き換えるパーティション管理ソフトや他の復元・リカバリーソフトなどとの併用はできません。
4. 下記のような Microsoft の機能も無効の状態でご使用ください。
 - 1)「システムの復元」機能（コントロールパネル-システム-システムの復元）
 - 2)電源オプションの「休止」機能
(コントロールパネル-画面-スクリーンセーバー「電源」-休止状態)
5. 対応ファイルシステムは FAT32、NTFS、UEFI です。
6. Windows 系以外の OS (Linux、Unix、IOS、Android など) は保護の対象外です。
7. 対応ハードディスクは IDE、SCSI、シリアル ATA、SSD です。
※シリアル ATA の場合、単独での使用のみの対応です。他の規格のドライブと混在では使用できません。
8. RAID 環境、ダブルスペースなどの圧縮ディスク環境(参考: Cドライブのプロパティ「ドライブを圧縮してディスク領域を空ける」にチェックが入っている状態等)では使用できません。
9. デュアルCPU等の環境(物理的にCPUそのものを2つ以上搭載する状態)では使用できません。一つの CPU パッケージ内に複数の CPU コアを封入した「マルチコア」(デュアルコアやクアッドコアなど)を1つだけ搭載した環境では使用可能です。
10. 拡張 IDE カードに接続したハードディスクは保護できません。
11. ハードディスクが物理的に破損した場合は、修復できません。

3-3 ご使用上のご注意

1. 「SysReturn」をインストールした状態で、システムのバックアップソフトでバックアップを行うことはできません。
2. インストール後の保護環境下で、デフラグは行わないで下さい。
3. 「SysReturn」をインストールした状態で、OS を再インストールまたはリストアしないでください。
4. MicroSoft の大きな Windows Update がある場合、不具合発生の可能性があります。その場合、解決方法として下記手順をお勧めいたします。
●SysReturn を一度アンインストール →Windows Update 完了 →再度 SysReturn をインストール
6. 対応 OS、バージョン情報については下記 URL をご確認ください。
<http://www.gfj.co.jp/annai>

3-4 インストール前のご注意

- 1、 コンピュータ システムが正常に動作し、スムーズであること、システムの最小要件を満たしていることを確認します。
- 2、 CMOS の VRUS Warning を Disable として設定します。
- 3、 ハード ディスク情報が CMOS ハード ディスク情報と一致していることを確認します。一致しない場合は、BIOS 設定に入り、ハードドライブのモデルと容量を再検出する必要があります。
- 4、 マルチブート ツールを使用している場合は、ハード ディスク MBR 領域でツールが使用されていないことを確認します。(MBR 領域はマルチブートで使用されます。最初にツールをアンインストールする必要があります。インストールしない場合、クライアント側プログラムがオペレーティングシステムを損傷する可能性があります。)
- 5、 オペレーティング システムのユーザーには、システム管理者権限が必要です。

- 6、 コンピュータに古いバージョンの製品が既にインストールされている場合、または他の会社の同じ種類の製品がある場合は、まずアンインストールしてください。
- 7、 インストールの前に scandisk プログラムを実行することをお勧めします。ハード ディスクのエラーを確認し、ハード ディスク再編成プログラム (defrager) を実行すると、インストール後のプログラム実行効率が大幅に向上します。
- 8、 インストールする前にコンピュータをスキャンして、コンピュータにウイルスやトロイの木馬がないことを確認します。
- 9、 この製品をインストールするときは、ウイルス対策ソフトウェアを一時的にオフにします。(少数のウイルス対策ソフトウェアがこの製品をコンピューターウイルスとして扱うためです。)
- 10、 このバージョンの復元保護機能は、最初の物理ハードディスクのすべてのセクターに対してのみ有効であり、2 番目 (またはそれ以上) のハードディスクのデータを保護することはできません。

4. 第四章 基本用語

1、復元ポイント

この製品は必要に応じて、復元するために特定の瞬間のハードディスク状態を保存します。この保存された状態は復元ポイントと呼ばれます。

2、復元ポイントの開始点(First RP)

復元ポイント開始点は、特殊な復元ポイントです。この製品がインストールされているシステムには、復元ポイント開始点が 1 つだけあります。その他の復元ポイントは、復元ポイント開始点に基づいています。この製品のインストールが完了すると、復元ポイント開始点が自動的に作成されます。

3、動的復元ポイント

復元ポイント開始点を基準にして、復元ポイント開始点に基づいて [保存] 機能によって作成された復元ポイントです。最大 29 個の動的復元ポイントを作成できます。

4、復元(自動復元)

ハードディスクのデータを以前に保存された状態(復元ポイント)に復元すると、これに基づいて更新されたハードディスクのデータは消去されます。

5、保留(手動復元)

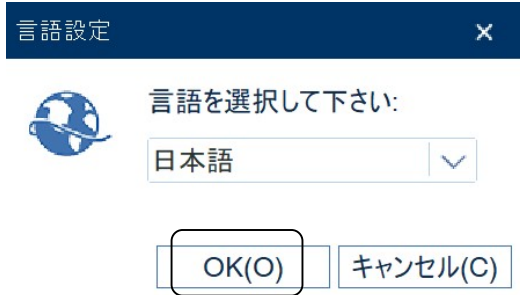
コンピュータが次に再起動してオペレーティング システムに入った後、現在のハード ディスクの状態は変更されず、保存も復元もされません。

6、復元ポイントの追加

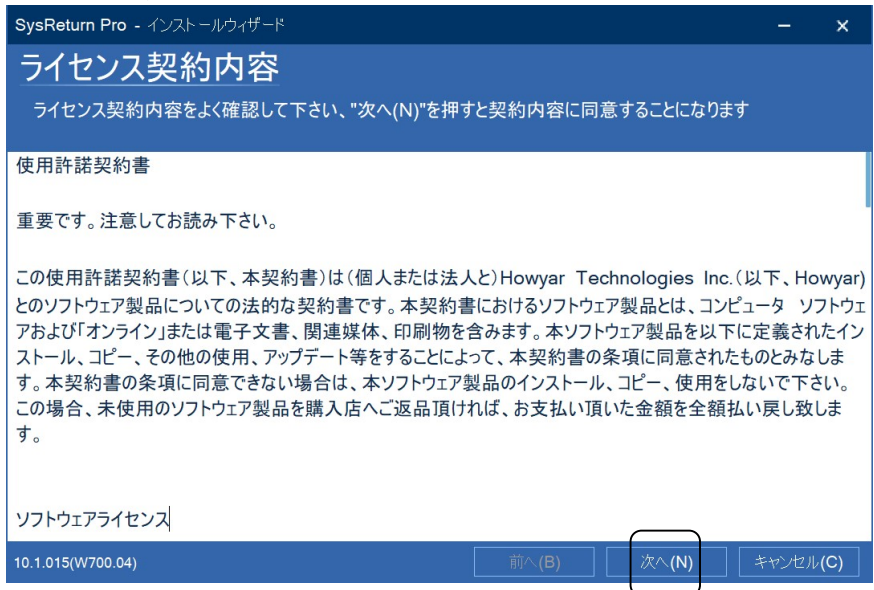
後で復元できるように、現在のハード ディスクの状態を復元ポイントとして保存します。

5. 第五章 インストール

1、次の図に示すように、この製品インストーラ setup.exe(SysReturn Setup フォルダ中にある)を実行し、インストールの準備を行い、インストール プロセスの残りの部分をガイドします。言語を選択し、[OK] をクリックしてインストールを続行します。



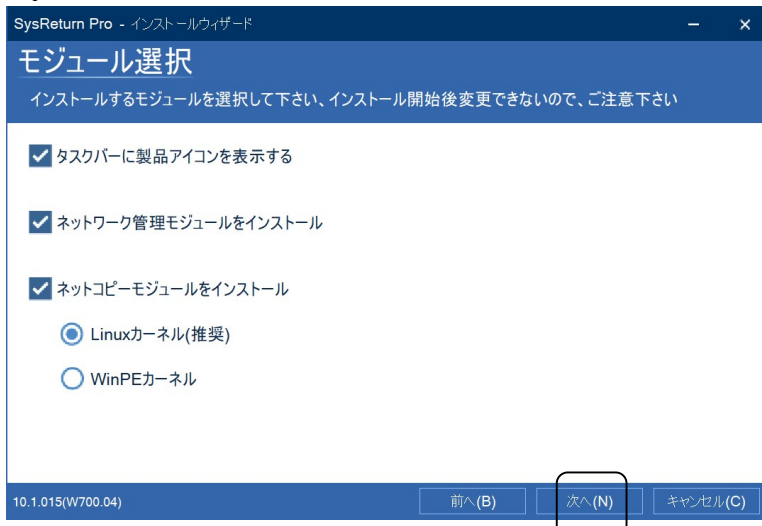
2、ライセンス契約内容の画面が表示されますので、注意深く読んだ後、「次へ」をクリックしてください。



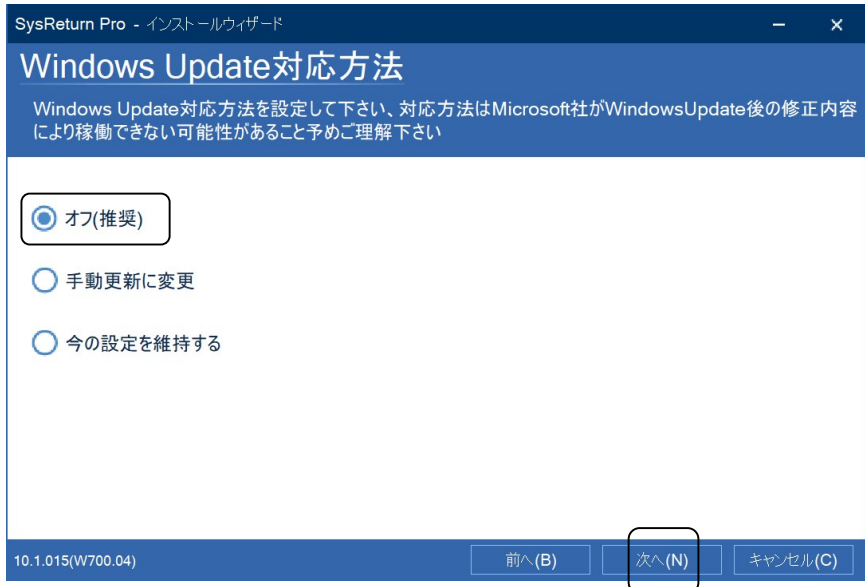
3、インストールフォルダ選択の画面が表示されますので、必要に応じてソフトウェアのインストール先フォルダを変更し、[次へ] をクリックします。



4、インストールするモジュールを選択してください。インストール開始後には変更できません。



5、Windows Update 対応方法の設定画面です。これにより、製品の安定性とパフォーマンスが向上します。[無効(推奨)] にチェックを入れ、[次へ] をクリックします。



6、プロテクトパーティション設定画面では、このインターフェイスで保護するパーティションを選択できます。次に、[次へ] をクリックします。ハードドライブに隠されたセクタがあるため、保護をチェックすることを強くお勧めします。



7、この画面では、「復元モード」を設定できます。設定が完了したら、「次へ」をクリックします。

SysReturn Pro - インストールウィザード

復元モード

ヒント: 起動時復元を設定する場合は、アプリケーションの自動更新機能を手動更新に変更することをお勧めします(例: Windows Updateやアンチウイルスソフトなど)

☒ 自動復元 ☒ 起動ごとに

☐ 自動保存 ☐ 1 日間隔 00:00

☐ 手動復元 ☐ 毎週 日 00:00

☐ 毎月 1 日 00:00

10.1.015(W700.04) 前へ(B) 次へ(N) キャンセル(C)

8、パスワードと最大復元ポイント数（最大 30 個の復元ポイントを選択）を設定し、「次へ」をクリックします。

SysReturn Pro - インストールウィザード

パラメータ設定

パスワード設定、復元ポイント数量制限、空き容量残量アラーム設定

☒ デフォルトパスワード使用(デフォルトは空白です)

☐ パスワード設定

パスワード入力: パスワード文字数は最大32文字まで

パスワード再入力:

復元ポイント最大数量: 5 対応可能最大数量 30 復元ポイント
ハードディスク使用時、復元ポイントの数量が増えると、保存データも増えるため、システムパフォーマンスが下がる原因となります

プロテクトエリアの残り容量が 10 %以下になった時、注意メッセージを表示

10.1.015(W700.04) 前へ(B) 次へ(N) キャンセル(C)

9、マスター (console) と通信するポートと IP アドレスを設定します。[ネットワーク機能をインストール] オプションを選択しなかった場合、この画面は表示されません。

SysReturn Pro - インストールウィザード

接続設定

コンソールと接続する場合のIPとポート設定

ポート

コンソール設定

接続アドレス

10.1.015(W700.04)

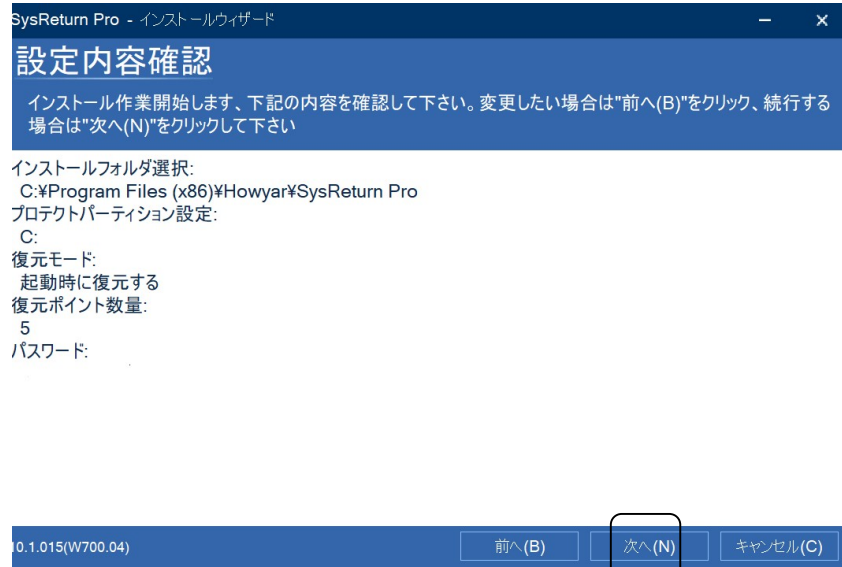
注意:

ここでの IP アドレスはマスターの IP アドレスであり、ポートはマスターインストール時のポート設定と一致する必要があり、環境は他のネットワーク通信ポートと同じである必要があります。そうでない場合、マスター側の IP アドレスが正しく設定されていても、マスター側との正常な通信は維持されません。

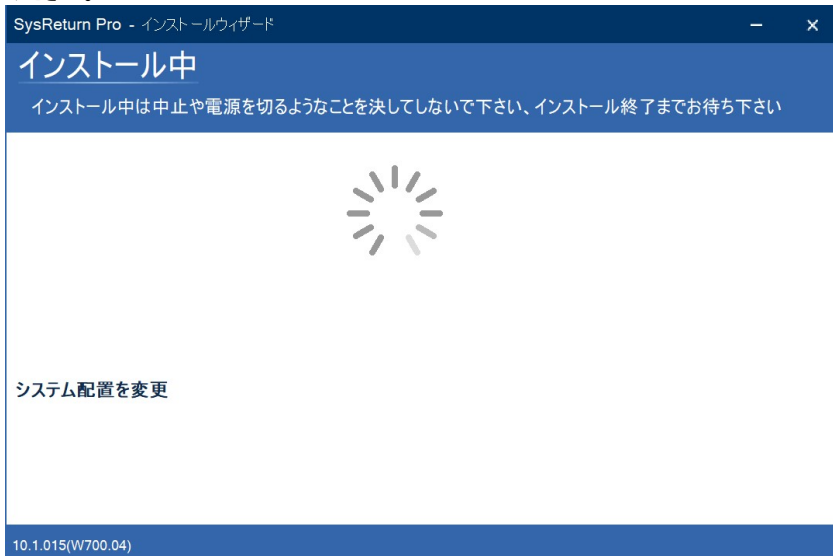
SysReturn Pro

コンソールのIPアドレスやDNSの設定がありません、設定しますか?

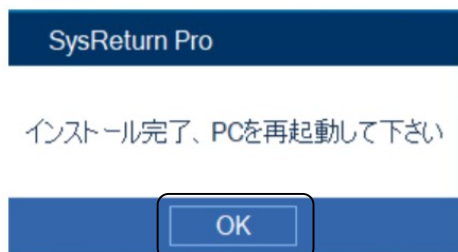
10、インストール内容を確認し、間違いがなければ「次へ」を押してください。



11、この製品プログラムのインストールを開始します。インストール中は電源を切らないでください。



12、インストールが完了したら、コンピュータを再起動する必要があります。再起動後、この製品プログラムは DOS の下の復元プログラムを自動的にインストールします。

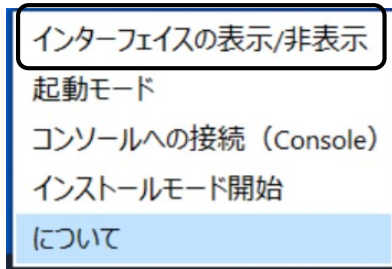


6. 第六章 Windows インターフェイスの操作

Windows オペレーティングシステムで、クライアント側の製品インターフェイスに入ります。保留、復元、保存、削除、設定、復元情報の表示などの機能を当マシンで実行できます。

【操作方法】:

<1>タスクバー内のこの製品アイコンにマウスを移動してください。マウスを右クリックして次のメニューから「インターフェイスの表示/非表示」を選択します。



<2>ログイン画面が表示され、パスワードを入力すると（既定のパスワードは空です）、メイン インターフェイスが表示されます。



6.1、ホーム

復元ポイント情報

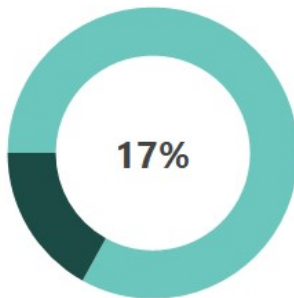
現在、確立している復元ポイント情報を表示します。




復元ポイント：		2/5
	First RP	2020/05/01
	20200501174015	2020/05/01

保護エリア情報

保護エリアの総容量、保護エリアの使用済み容量、保護エリアの残りの容量に関する情報を表示します。

注意：残りの領域が低すぎると、部分的な復元ポイント機能が強制的にロックされます。
運用を再開するには、スペース解放が必要です。



	使用済：	78.77GB
	残容量：	385.33GB
	保護サイズ：	464.10...

パーティション情報

ハード ディスク パーティションの分割情報を表示します。

SysReturn
? - x

ホーム
復元ポイントの管理
スタンダアロン環境
設定

← ハード ディスク 分割領域データ

ハード ディスクの総容量：465.76GB
保護エリアの容量：464.10GB

ディスク ドライブ	ラベル	ファイル システム	サイズ	使用可能なサイズ	保護状態
*0		FAT32	260.00MB	227.00MB	保護
*1		MS Reserved	16.00MB	0B	保護
C	OS	NTFS	464.93GB	389.99GB	保護
*3		NTFS	571.00MB	82.30MB	保護

残りのスペースが警告値を下回ったときに通知する： %

V8.0.005(W251)
...

空き容量アラーム

設定 ハードディスク保護領域の残り領域が設定値より小さい場合、警告ウィンドウが表示されます。

説明：


復元システムは、保護パーティションの残りの領域を厳密に制御します。保護パーティションの残りの領域が保護パーティションの合計スペースの 10%未満である場合、警告ウィンドウがポップアップ表示され、ユーザーにプロンプトが表示されます。：ディスクの空き容量が不足しています；保護パーティションの残りの領域が保護パーティションの合計スペースの 5%未満である場合、**プログラムは保護パーティションをロックし、ユーザーのデータを書き込み操作の実行ができないようにします。ユーザーのデータ読み取りと削除のみを許可します**；また、プログラムはクライアント側のマスターインターフェイスを開くことを許可しません。復元ポイントを保存する操作をユーザーが実行できないようにするため、ユーザーがクライアント側のインターフェイスを開こうとすると、復元ポイント開始点を更新するように求められます。

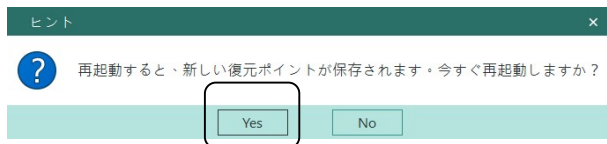
6.2、追加

機能の概要:

現在の保護パーティションの状態を、後で復元するための動的復元ポイントとして新しく作成します。この製品クライアント側は、ハードドライブの容量に応じて、最大 29 の動的復元ポイントを保持することができます。29 個の復元ポイントがいっぱいになった場合、最新の保存された復元ポイントは、最も古い復元ポイントに上書きされます。

【操作方法】:

〈1〉メイン インターフェイスの  クイック追加 アイコンをクリックします。(このセーブポイントメソッドでは、名前と説明を設定できません。DOS で直接ポイントを保存します。) 次の画面が表示されます:



〈2〉2 番目の追加方法: 機能バーアイコン  復元ポイントの管理 をクリックすると、次のインターフェイスが表示されます:



復元ポイントの管理インターフェイスアイコン  復元点追加 をクリックすると、次のインターフェイスが表示されます：



この時点でハードディスクのステータスを保存する必要があります。後で区別するために、復元ポイントの名前と復元ポイントの説明を入力してください。

[決定] をクリックすると、Windows で復元ポイントが作成されます。(再起動を選択して、コンピュータの再起動時に復元ポイントを保存します)

注意:[再起動]のチェックを外すと、コンピュータは Windows デスクトップに復元ポイントを追加します。Windows の背景にあるアーカイブがコピー操作中である場合、新しい復元ポイントのコンテンツ データが正しくないため、次回この時点に復元したときにデータが不足していることが原因で、電源が切れる可能性があります。したがって、新しい復元ポイントが長期間使用され、コンテンツ データが正しいことを確認するには、[再起動] をチェックして新しい復元ポイントを追加します。


6.3、復元

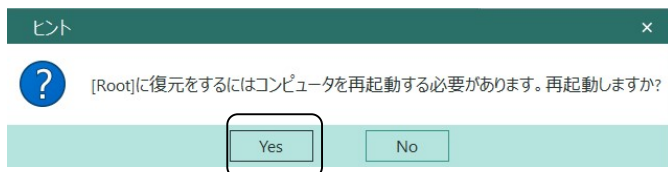
機能の概要：

ハード ディスクの状態を、以前に保存した任意の復元ポイントの状態に復元します。

【操作方法】:

<1>メインインターフェイスで復元ポイントの管理を選択した後、メインインターフェイスの

 復元する アイコンをクリックすると、次のインターフェイスが表示されます:



最後に保存したバックアップ ポイントに戻す:

ハード ディスクの状態を最後に保存した復元ポイントの状態に復元します。

別のバックアップ ポイントを選択する:

ハード ディスクの状態を、以前に保存した復元ポイントの状態に復元します。この復元ポイントには、以前に保存した動的復元ポイントまたは開始復元ポイントを指定できます。

<2>必要に応じて選択したら、[決定] ボタンをクリックして復元操作を開始します。

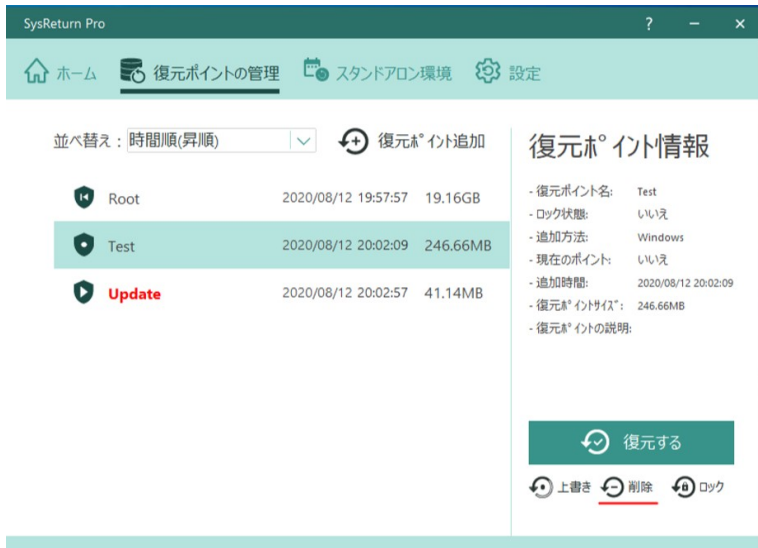
6.4、削除

機能の概要:

以前に保存した不要になった 1 つ以上の復元ポイントを削除します。削除後、この復元ポイントへのハードディスク状態には戻れません。

【操作方法】:

<1>復元ポイントの管理を選択した後、次のインターフェイスが表示されます:



＜2＞削除する必要がある復元ポイントを選択し、[削除] ボタンをクリックして削除します。
削除後、この復元ポイントの状態には復元されません。

注: 現在の復元ポイントは削除できません。したがって、現在の復元ポイントは、削除可能な復元ポイントの一覧に表示されません。

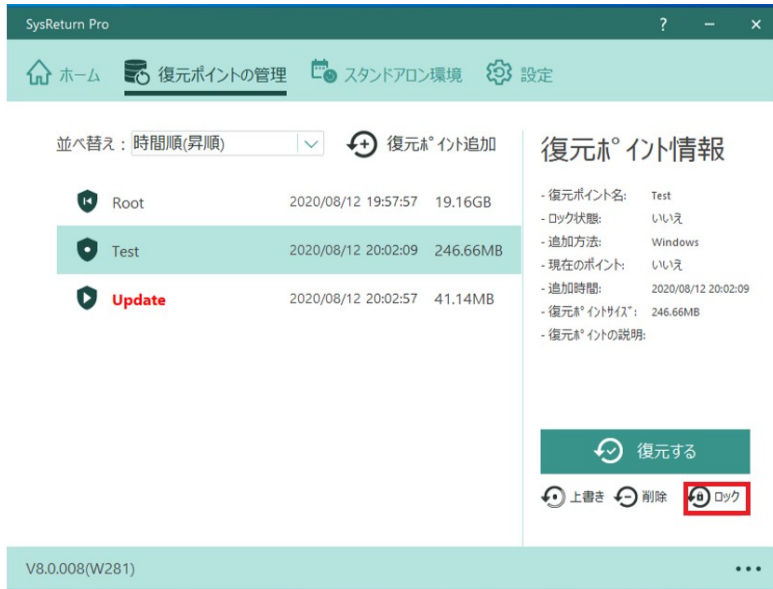
6.5. 復元ポイントのロック

機能の概要:

復元ポイントのロックは、削除したり新しく作成された復元ポイントで上書きしたりできません。必要なハードディスクの状態が誤って削除または上書きされるのを防ぎます。復元ポイントのロックを解除して、上書き可能な状態に戻すことができます。

【操作方法】:

＜1＞赤いボックスのアイコンをクリックします:



＜2＞ロックする復元ポイントを選択し、[ロック] ボタンをクリックしてロックします。

＜3＞ロックを解除する復元ポイントを選択し、[ロック解除] ボタンをクリックして、復元ポイントのロックを解除し、復元ポイントを元の状態に戻します。

注意: 復元ポイントのロック機能は、動的復元ポイントに対してのみ有効であり、復元ポイント開始点をロックすることはできません。

6.6、スタンドアロン環境

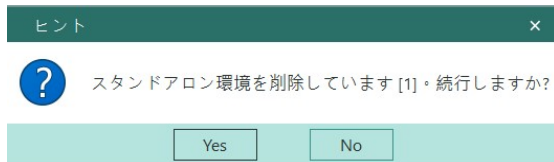
- 1、インターフェイスの機能バーの  スタンドアロン環境 アイコンをクリックすると、次のようなインターフェイスが表示されます:



2、[追加] をクリックすると、次のインターフェイスが表示されます。:



3、[削除] をクリックすると、新しく作成された独立環境が削除されます。



4、[変更] をクリックすると、次の画面が表示されます:

SysReturn

ホーム 復元ポイントの管理 **スタンダアロン環境** 設定

← スタンダアロン環境データの変更

依存点: First RP

名前: 1

パスワード:

パスワードの確認:

説明:

決定

V8.0.005(W251)

5、クリックしてポップアップウィンドウを開きます:

ヒント

？ スタンダアロン環境に入るには[%s]を再起動する必要があります。続行しますか?

Yes No

注意:

スタンダアロン環境表示リストは開くように事前設定されており、待機時間を設定したり、スタートアップ画面に表示するかどうかを設定したりできます。スタンダアロン環境に入った後は、ソフトウェアを開くことができず、スタンダアロン環境での操作は復元されません。

6.7、設定

機能の概要:

リセットパラメータ、マスターの接続ポート、ネットワークプロパティなど、必要に応じてこの製品の関連パラメータを設定できます。

6.7.1. 電源起動復元モードの設定



(1)、復元モード

- **自動復元**: 復元を実行すると、コンピュータを再起動するたびに、システムが現在選択されている復元ポイントの状態に自動的に復元されます。
- **自動保存**: ストレージの復元ポイントを設定すると、コンピュータを再起動するたびに新しい復元ポイントが自動的に作成されます。(最大復元ポイントの上限に達すると、最も古く、ロックされていない動的復元ポイントが上書きされます。)
- **手動復元**: 手動復元を設定すると、コンピュータを再起動してもシステムは以前に実行した操作を復元しません。
- **時間指定保存**: 数日間、現在のハードディスクの状態を保存します。必要に応じて数日ごとに 1～99 日間の範囲を選択できます。
- **時間指定復元**: 数日ごとに復元します。必要に応じて数日ごとに 1～99 日間の範囲を選択できます。

注意:

7 日ごとに復元するように設定すると、コンピュータは 8 日目に初めて電源を入れると自動的に復元操作を実行します。8 日目は電源が入らず、14 日目に電源を入れると、14 日目

の電源がオンになったときに、自動的に復元操作を実行します。15 日目に電源を入れたら、また自動的に復元操作を実行します。など、復元操作は 15、22、29 ...日の後に初めて電源を入れた日に自動的に復元が実行されます。

6.7.2. コンソールへの接続

マスターに接続されているポート、マスターの IP アドレス、および DNS を設定します。



注意:

- ＜1＞ ポート値は 0 より大きい整数値を使用してください。最大値は 32767 を超えることはできません（0< ポート値<32767）。（マスター設定値が同じことに注意してください。）
- ＜2＞コンピュータにファイアウォールが装備されている場合は、外部と通信するためにポートが開いていることを確認してください。
- ＜3＞複数のマスター IP アドレスを設定し、IP アドレスの順序に従って上から下に優先的にマスターに接続できます。
- ＜4＞ポートの値が他の製品デバイスと異なっていることを確認してください。

6.7.3. ネットワーク設定

このマシンに使用するコンピュータ名、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバーアドレスなどを設定します。



＜1＞アドレス設定はネットワークカードに適用されます: コンピュータがマルチネットワークカードの場合、ネットワークカードがバインドされた後、ネットワークプロパティを変更する機能を実行すると、バインドするネットワークカードのネットワークプロパティを変更するものと見なされます。

(ネットワーク カードのバインド方法については、「Dos のバックアップ管理 - ローカルネットワーク設定の変更」を参照してください。)

＜2＞コンピュータ名の設定: ローカルコンピューター名を設定するには、[コンピュータ名の設定]をオンにして、設定ボックスにコンピュータ名を入力します。

＜3＞IP アドレスの設定: [IP アドレスの設定] をオンにして、設定ボックス内の IP アドレス、

サブネット マスク、デフォルト ゲートウェイを設定します。;また、[IP アドレスを自動的に取得] を選択して、コンピュータの起動時に IP アドレスを自動的に取得することもできます。

(DHCP サーバーがネットワーク上で使用可能であることを確認するには、自動 IP アドレス取得が有効です。)

<4>DNS サーバー アドレスの設定:[DNS の設定] をオンにして、設定ボックス内の通常の DNS サーバーおよびその他の DNS サーバーを設定します。

<5>「使い分け」をクリックして、ネットワーク設定の操作を完了します。(「再起動して設定する」をチェックすると、コンピュータはすぐに再起動して、ネットワークのセットアップを完了します)

6.7.4. ドメインへの参加/終了

参加/終了するドメインを入力すると、コンピュータは再起動時にこの変更を使用します。

6.7.5. ブートメニューの設定



- 起動後に復元画面を表示する: 起動時に DOS アニメーションを表示するか選択できます。(オプションを閉じるときにグレー表示されます。)
- 起動後の復元画面の表示時間: 起動時に復元画面、DOS インターフェイスのカウンタダウン待機時間を表示します。
- 起動時に復元ポイントリストメニューを表示する: 起動時に復元ポイントリストメニューを表示するか選択できます。
- 起動時にスタンドアロン環境のリストを表示する: 起動時に独立した環境リストメニューを表示するか選択できます。
- リストメニューの表示時間を復元する: 起動時に表示する復元チェックリストの復元メニューのカウンタダウン待機時間。
- デフォルトの背景は、1024*768 解像度の画像に置き換えることができます。

6.7.6. ブートメニューホットキーの設定



ブートメニューホットキーの設定: DOS インターフェイスの機能に対応するショートカットキーを設定します。

6.7.7 デバイスの制御

この機能により、USB ストレージ デバイスと CD ドライブを制御できます。クライアント側の USB ストレージデバイスは、「許可する」、「読み取り専用」、「無効にする」、「実行を禁止する」であり、CD ドライブの「許可する」または「無効にする」制御が可能です。

【操作方法】:

[設定インターフェイス] で、機能パネル内の<デバイスの制御>をクリックします。



ユーザーは、これらのオプションを選択することで、コンピュータのUSBストレージ デバイスとODDドライブを制御できます。

許可する: クライアントのデバイスの使用を許可します。

読み取り専用: クライアント側はデバイス内のファイルのみを読み取ることができ、書き込みはできません。

無効にする: クライアント側は、デバイスを使用することはできません。

実行を禁止する: このオプションは、「許可」または「読み取り専用」モードで選択できます。このオプションを選択すると、クライアントはデバイスからプログラムの実行ができなくなります。

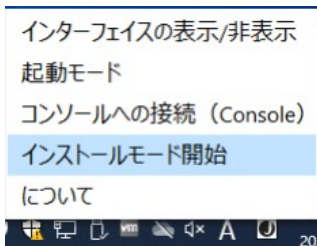
6.7.8 インストールモード設定

インストールモードに入ると、パソコンがインストールされていないのと同じ状態になり、ユーザーはソフトウェアのインストール、Windows 10 のバージョンアップやアップデートなどのメンテナンス内容をインストールモードで行うことができます。

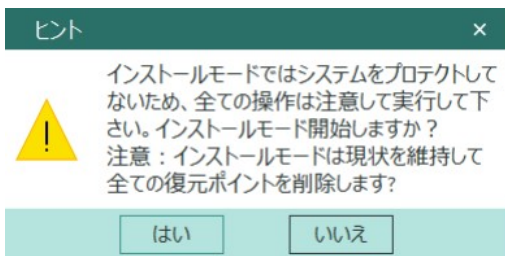
注: OS がクリーンな状態で作業を行うために、まずブート復元を行うことをお勧めします。

本製品では、インストールに入るための Windows 操作モードを2種類用意しています。

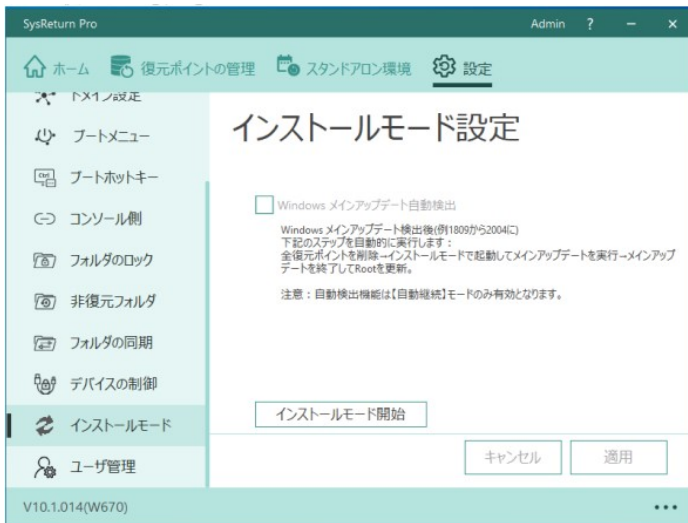
- 1、右下のアイコンを右クリックし、[インストールモード開始]を選択します。



次のような警告が表示されます。[はい]を選択してください。

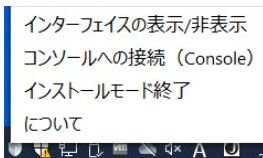


2、 復元画面の【設定】からアクセスします。

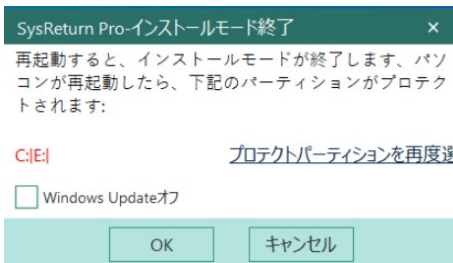


注: ☐ Windows メインアップデート自動検出 は [復元しない]モードでのみ使用可能です。ユーザーは復元を行わない通常的环境下でバージョンアップ作業を行うことができます。

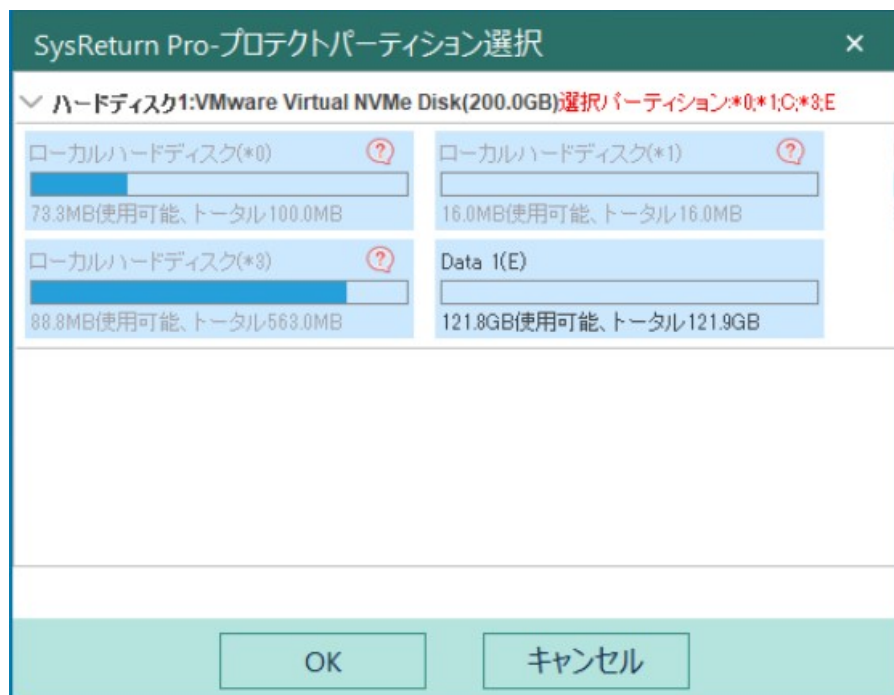
3、 メンテナンス作業が終了し、インストールモードを終了する場合は再度、アイコンを右クリックし、[インストールモード終了]を選択してください。



4、 [インストール モード終了]をクリックすると、以下のようなポップアップウィンドウが表示されます。



- 5、 [ハードディスクパーティションの保護]をクリックすると、以下の画面が表示されます。



保護対象のハードディスクのパーティションを再選択します。次に[OK] をクリックしてインストールモードを終了し、復元をインストールします。

6.8. その他



復元ポイント名:20200501174015 追加時間:2020/05/01 17:42:25 復元点サイズ:502.98MB



インターフェイス上の赤いフレームで識別されるアイコンをクリックすると、

... 復元パスワード...

✂ ツール

🗑 削除

© について

アイコンが表示されます。

復元パスワードの変更

[復元パスワードの変更] を選択します:

復元パスワードの変更

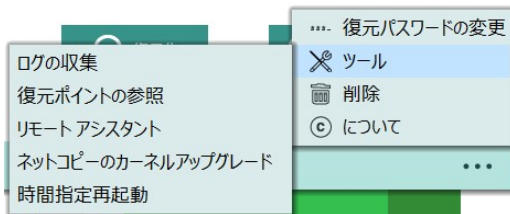
現在のパスワード

新しいパスワード

パスワード

決定 キャンセル

図に示すように「ツール」オプションをクリックし、ログの収集、復元ポイントの参照、リモートアシスタント、ネットコピーのカーネルアップグレード、または時間指定再起動を選択します。



● ログの収集:



[収集開始]を選択すると、必要なデータが自動的に抽出され、最後に次の図が表示されます。:



取得したログの取り扱いについて決定してください。

提供先のメールアドレスを入力:

保存

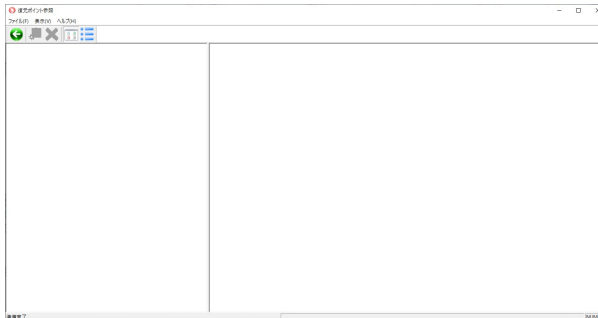
再取得

送信する

送信しない(9)

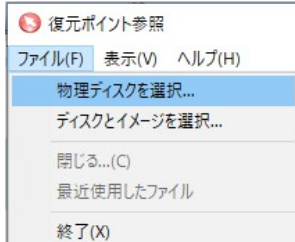
注意: システムに関するサポートが必要な場合、収集ログを押してサービス担当者に提供すると、処理速度のスピードアップに役立ちます。

● 復元ポイントの参照:

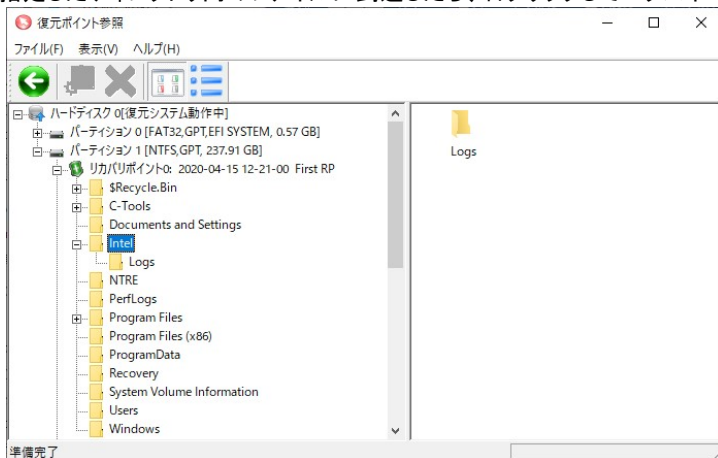


選択すると、現在のハードドライブに保存されているデータを表示し、エクスポートできます。

1. ファイルをクリックして、開きたいタイプを選択します（ディスクまたはイメージ）



2. ツールバーの表示をクリックして機能を開きます。
3. 指定したディレクトリ内のファイルに到達したら、右クリックしてエクスポートできます。



● リモート アシスタント:

問題が発生した場合は、リモートで制御する必要があるエンジニアがこの機能をオンにし、サービス担当者に情報をリンクするように指示します。

● ネットコピーのカーネルアップグレード:

netcopy 速度に異常が見つかったり、転送に失敗したりした場合は、この機能でカーネルを交換して再試行してください。

● 時間指定再起動:

ユーザーが「タイマー再起動を起動」を選択した後、次の値に従って、指定された分ごとに再起動できます。

システムは、指定された時間になると再起動の通知をします。

● ソフトウェア ライセンスの登録

の「©について」をクリックすると、画面が表示されます。

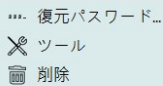


6.9、削除

(1) 現在の状態を保存した後に削除する。

現在のハード ディスクの状態を保存した後、この製品を削除すると、他の復元ポイントのデータが削除されます。これを行うと、コンピュータは自動的に 2 回再起動します。

手順：



<1> ③ についての「削除」を選択すると、次のようなコンソール画面になります。



<2> [使い分け]をクリックすると、コンピュータは Windows でクライアントシステムの削除を自動的に実行します。削除されると、コンピュータは自動的に再起動されます。

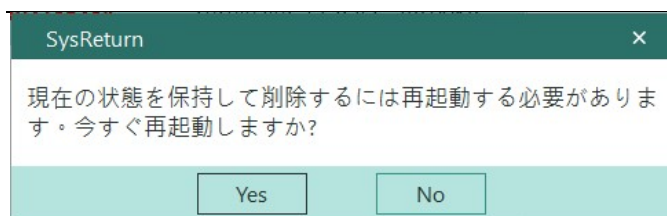
<3>DOS システムでは、クライアントの開始ポイント更新を実行します。クライアントシステムの削除を完了するために、Windows システムを再起動します。

(2) 復元ポイントを最終状態として選択した後に削除する。

指定した復元ポイントが開始点として保存されます。他の復元ポイントが削除され、製品が削除されます。

手順：

<1> [復元ポイントを最終状態として選択した後に削除する]を選択し、復元ポイントを選択します。[使い分け] をクリックすると、次のプロンプト ウィンドウが表示されます。：



<2>[Yes] をクリックすると、システムが再起動し指定した復元ポイントに復元され、Windows オペレーティング システムに入ります。

<3> Windows オペレーティングシステムに入ると、コンピュータは Windows でのクライアントシステムの削除を自動的に実行します。削除が完了すると、コンピュータは自動的に再起動して削除を完了します。

7. 第七章 DOS インターフェイスの操作

DOS アニメーション起動時に、ホームボタンを押して DOS 操作インターフェイスに入ります。

7.1、DOS インターフェイスに入る

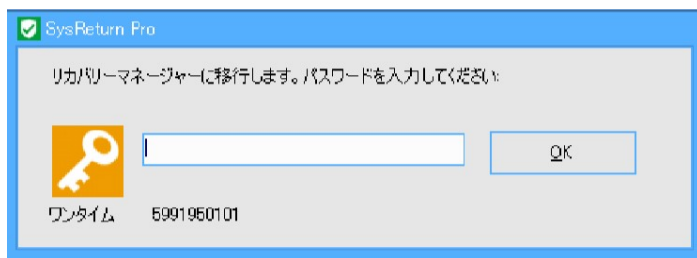
説明:

- 1.この製品のすべてのインターフェイスは、Windows スタイルです。
- 2.キーボード操作のサポート。
- 3.キーボード操作。
 - (1) 矢印キーの左右のキーは機能選択ボタン、矢印キーの上下のキーで復元ポイントの選択、〈Enter〉は確認を示し、〈ESC〉はキャンセルまたは返品を意味します。
 - (2) 〈Tab〉キーと〈Shift〉 〈Tab〉を使用すると、個々のインターフェイス コントロールを切り替えることができます。
4. 製品の機能を実行してコンピュータを再起動するように設定した後、コンピュータの電源を入れたときに〈Home〉または〈Scroll Lock〉を押して最後のコマンド操作をキャンセルすることができます。

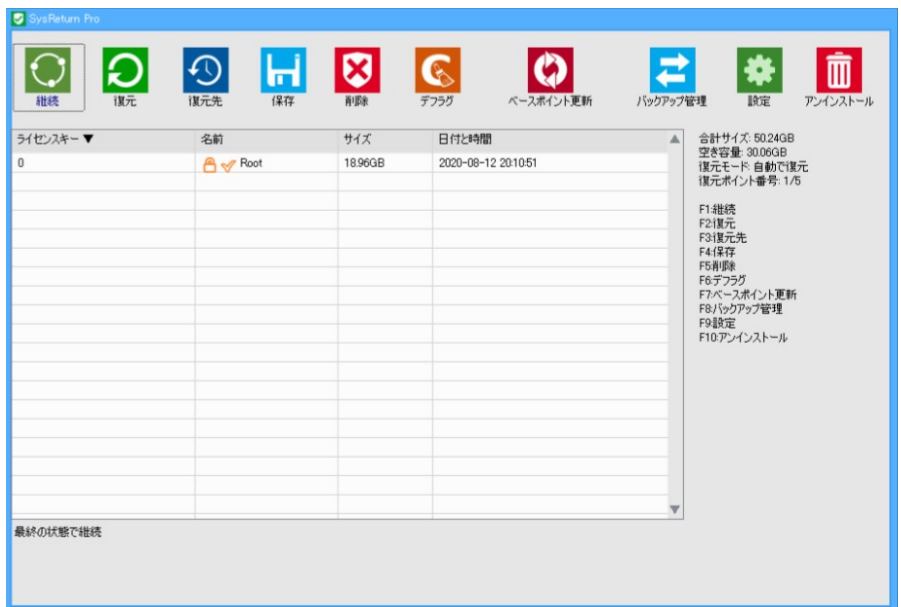
詳細な操作:

DOS 操作インターフェイスに入る方法は 2 つあります:

- ・ コンピュータの BIOS の電源が入った後、Winodws に入る準備をすると、背景を持つカウントダウン ライト バーが表示されます。キーボードの〈Home〉キーを押すと、DOS インターフェイスのログイン画面が表示されます。
- ・ コンピュータの BIOS 起動画面 RUN が実行された後、Winodws に入る準備をすると、背景を持つカウントダウンライトバーが表示されます。キーボードの〈ScrollLock〉キーを押すと、DOS インターフェイスのログイン画面が表示されます



パスワードを入力したら、DOS メイン インターフェイスに移動します。



7.2、継続



現在自動復元モードの場合、オペレーティングシステムがハードディスクを復元せず、Windows に入った後も最後の保護パーティションのハードディスク状態を維持し、電源オン時にこの保持を実行できます。

【操作方法】:

DOS メインインターフェイスで「継続」を選択してオペレーティング システムに直接移動します。

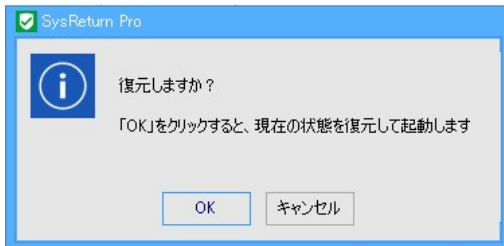
7.3、復元



現在の復元方法が自動保存モードで、ハード ディスクの状態を現在の復元ポイントが作成されたときの状態に戻す場合は、次の操作を実行できます。

【操作方法】:

DOS メインインターフェイスで[復元]を選択すると、次の図が表示されます。:



[OK] をクリックすると、ハード ディスクの状態が現在復元ポイントが作成されたときの状態に復元されます。

7.4、復元先



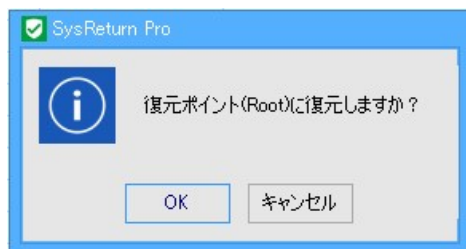
ハード ディスクの状態を指定した復元ポイントの状態に復元します。

【操作方法】

DOS メイン インターフェイスで[復元先]を選択すると、復元ポイントインターフェイスが表示されます。

ライセンスキー ▼	名前	サイズ	日付と時間
0	Root	18.96GB	2020-08-12 20:10:51
1	update1	534.78MB	2020-08-12 21:08:25

最初に復元ポイントに復元する状態を選択してください。次に、[OK]をクリックすると、次の図が表示されます。



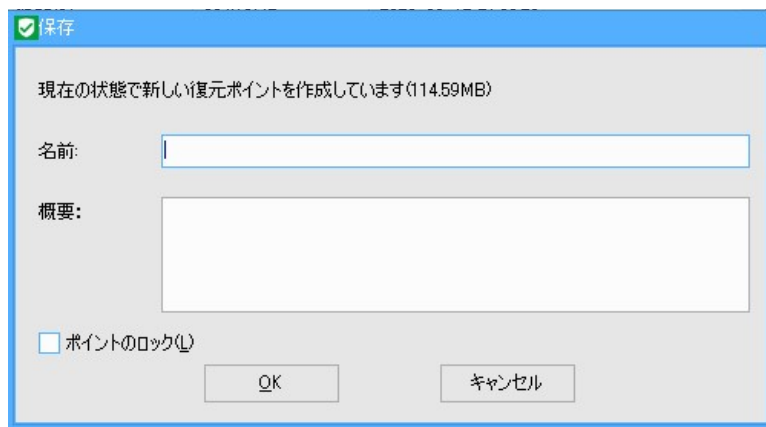
7.5、復元ポイントの追加



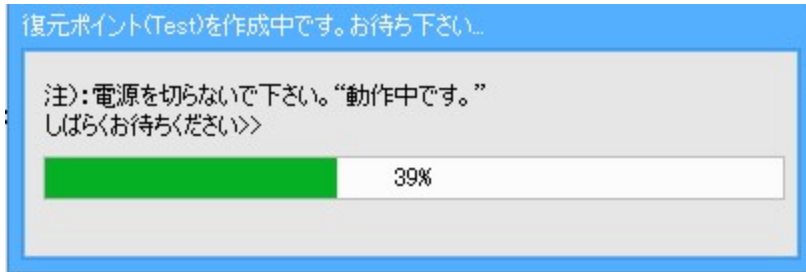
後で復元できるように、ハード ディスクの現在の状態を保存します。

【操作方法】

<1>DOS メイン インターフェイスで「保存」を選択すると、次の図が表示されます。



＜2＞後で区別できるように、復元ポイント名を入力してください。次に、[OK] ボタンをクリックして復元ポイントの確立を開始します。



復元ポイントが保存されると、自動的にシステムに入ります。

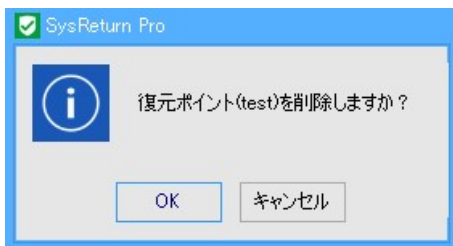
7.6、削除



削除前に保存した復元ポイントを選択します。復元ポイント開始点、ロックされた復元ポイント、および現在の復元ポイントは削除できません。

【操作方法】:

1.DOS メイン インターフェイスで復元ポイントを選択します。[削除] をクリックすると、次の画像が表示されます。:



2.[OK] ボタンをクリックすると、選択した復元ポイントが削除されます。

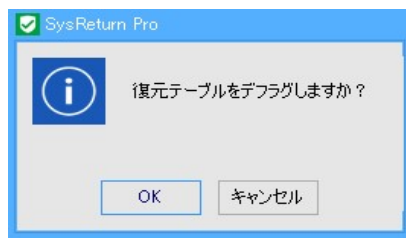
7.7、デフラグ



ディスクの使用では必然的にいくつかの断片化が発生するため、ハードディスクの使用効率を向上させるために、定期的にハードディスクを整理する必要があります。この製品を使用すると、この問題を解決できます。

【操作方法】

＜1＞DOS メイン インターフェイスの「デフラグ」ボタンを選択します。次のプロンプトが表示されます。:



＜2＞[OK]をクリックして、ディスクの最適化を開始します。

7.8、ベースポイントの更新



動的な復元ポイントを選択するか、現在のハードディスクが置かれている復元ポイントの状態を新しい復元ポイント開始点として保存し、以前に保存した復元ポイントを置き換えます。復元ポイント開始点を更新すると、他の動的復元ポイントが削除され、これらの動的

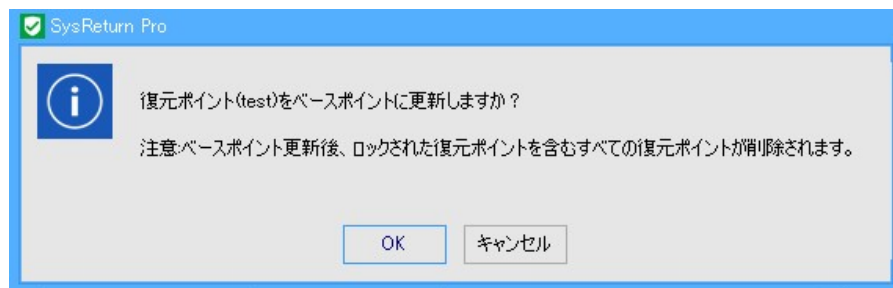
復元ポイントのデータは保持されません。

【操作方法】:

<1>DOS メイン インターフェイスで[更新開始点] を選択すると、次の図が表示されます。:

ライセンスキー ▼	名前	サイズ	日付と時間 ▲
0	 Root	18.96GB	2020-08-12 20:10:51
1	update1	534.78MB	2020-08-12 21:08:25
2	test	112.53MB	2020-08-12 21:15:14
3	 Test	91.95MB	2020-08-12 21:16:38

<2>動的復元ポイントを選択するか、[現在のハード ディスク環境を復元ポイント開始点として更新する] を選択します。次に、[OK] をクリックして、次の画像を表示します。:



<3>更新する場合は、[OK] で開始点を更新します。



<4>更新が完了すると、自動的に Windows システムに入ります。

7.9、設定



復元モード、パスワードを設定することができます。

【操作方法】

[設定]ボタンを選択して、設定インターフェイスを表示します。

設定

ライセンスキー ▼	ファイルシステム	合計サイズ(MB)	保護状態 ▲
0	NTFS	529	保護
1	FAT32	99	保護
2	Ms Reserved	16	保護
3	NTFS	50555	保護

☒ 自動復元 ☐ 自動保存 ☐ 手動復元
☐ 時間指定復元 ☐ 時間保存

☒ 日 0 00 : 00 値の範囲は1から99です
☐ 毎週 1 12 : 00 値の範囲は1から7です
☐ 毎月 1 12 : 00 値の範囲は1から31、もしくは255です。255を指定するとその月の最後の日になります

☐ パスワードを変更
 新しいパスワード: 確認用パスワード:

☐ マウスをサポート(E)

- 自動復元 (R): コンピュータを起動するたびに、システムは現在の復元ポイントの状態に自動的に復元されます。
- 操作なし (S): コンピュータを起動するたびに、以前に実行した内容が自動的に保持されます。
- 復元ポイントを追加する (A): コンピュータを再起動するたび、WINDOWS システムに入る前に復元ポイントが自動的に保存されます。

- 時間指定復元(T):コンピュータが設定した時刻に復元を実行します。
- 時間指定で復元ポイントを追加する (D):コンピュータは、設定された時刻に保存を実行します。
- パスワードの変更(P):必要に応じて現在のパスワードを変更できます。
- マウスのサポート(E):DOS 画面に移動すると、マウス機能が有効になります。(一部のハードウェアではサポートできません)

7.10、アンインストール



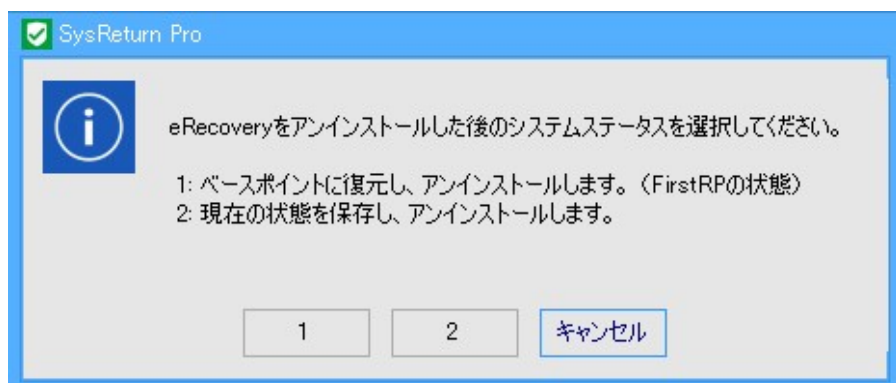
DOS の下でのアンインストール機能は、システムを復元の開始ポイントに復元した後、この製品をアンインストールすることです。すべての動的復元ポイントが削除され、動的復元ポイントのデータは保持されません。動的復元ポイントの削除を維持する場合は、この製品の windows の下のアンインストール機能を使用します。

DOS でアンインストールを実行すると、システムは 2 回再起動します。復元しないデータの保持と開始点の更新は個別に実行されます。

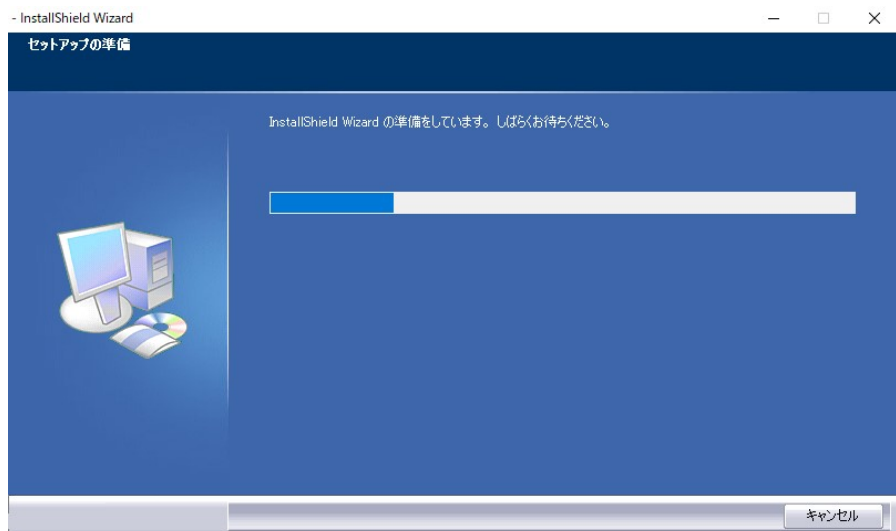
【操作方法】:

<1>DOS メイン インターフェイスで [アンインストール] を選択した後に表示されます:





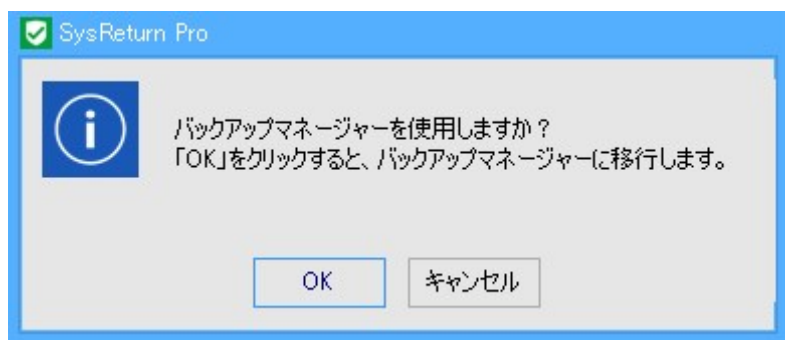
＜2＞1 または 2 を選択し、[OK] をクリックして、この製品をアンインストールします。コンピュータは、まず Windows オペレーティングシステムに入り、Windows で復元されたクライアント側プログラムを自動的に削除します。



＜3＞その後、コンピュータが再起動されます。起動時に初期復元ポイントを自動的に更新し、DOS のプログラムを削除します。

＜4＞オペレーティング システムに入ったら、アンインストールが終了します。

ステップ 3: バックアップ管理の方法を選択すると、確認インターフェイスが表示されます:



ステップ 4: [OK] をクリックすると、システムは製品のクライアント側のバックアップ管理画面に入ります。

<1> ネット同期コピー: バックアップ管理画面への入り口は、送信側と受信側です。

<2> ローカル バックアップ: ハードドライブのデータをバックアップします。

<3> ローカルリカバリ: ローカル バックアップのミラーを実行ハードディスクに復元します。

<4> ハードドライブの同期コピー: 1 つのハードディスクから別のハードディスクにデータを同期コピーし、1 対多の同期コピーをサポートします;

<5> ローカルネットワーク設定を変更する: コンピュータ名、IP、DNS、ドメインへの参加、ドメインの終了などを変更します。



方法2:

ステップ 1: マスターを使用して、ネットワーク同期コピーブートディスクを作成します。作成方法については、マスター側のブートディスクの作成セクションの説明を参照してください。

ステップ 2: USB フラッシュドライブ、ISO イメージファイル、pxe または pxe サーバーを使用して、クライアント側コンピュータをバックアップ管理インターフェイスに誘導します。

方法3:

クライアント側コンピュータのカウントダウン画面の再起動時に、F6 キーを押すとネットワーク同期コピー画面に入ります。

方法4:

送信者がネット同期コピーの送信者インターフェイスに入ります。受信者のコンピュータに復元がインストールされている場合、再起動すると自動的にネット同期コピー画面に入ります。

8.2. ネット同期コピー

増分ネット同期コピーは、リモートコンピューターのデータを最小限のデータで更新するネット同期コピー方法です。受信側に送信側のデータの一部が既に含まれている場合、送信者に欠けているデータの一部のみを同期コピーするため、ネットワークコピーが高速化され、ユーザーの時間を節約できます。

ネット同期コピーの実行に関する注意事項:

<1>受信コンピュータは、この製品のクライアント側プログラムをインストールするかを選択できます: クライアント側プログラムがインストールされていない場合、USB フラッシュドライブ、PXE または CD ブートプログラムを使用して、受信端末を起動できます。

<2>受信側と送信側のコンピュータ ハードウェア構成は、基本的に一貫している必要があります。(例えば: グラフィックス カード、マザーボード、ネットワーク カードなど)。そうでない場合、ネット同期コピーが完了後、受信側でブルー スクリーンやハードウェア ドライブが見つからないなどの問題が発生する可能性があります。受信側と送信側のコンピュータ ハードウェア構成が若干異なる場合(例えば: ハードドライブのサイズが異なる場合、マウス/キーボードが異なる場合、モニタが異なるなど)、受信側は、システムに最初に入った後、新しいハードウェアを自動的に認識し、動的復元ポイントを自動的に保存します。

ネット同期コピーの説明:

<1>送信側と受信側のネット同期コピーについて: 一方はデータの送信側、もう一方はデータの受信側です。ネット同期コピーの送信者と受信者は、この製品のプログラムに含まれています。

<2>2. クライアント側サンプルがインストールされているコンピュータの初期復元ポイントデータが、他のターゲットコンピューターの初期復元ポイントデータと同じ場合、増分同期コピーを実行時ユーザーは増分同期コピーデータオプションを選択して、増分同期コピーを実行できます。; そうでない場合、増分同期コピーを実行するときに、増分データをコピーするオプションがグレー表示され、増分コピーは使用できません。

増分同期コピー特定の操作手順を紹介します：

ステップ 1: バックアップ管理を入力した後、ネット同期コピーを実行するときに、まずデータソースとして送信者を選択する必要があります。60 秒のカウントダウン終了前に送信端としてクライアント側を選択し、[OK]ボタンをクリックしてください。

実行モードを選択

☒ 送信する ☐ 受信する
☐ ローカルバックアップ ☐ ローカル復元
☐ ディスクコピー ☐ ローカルネットワーク設定変更

OK キャンセル

ステップ 2: 送信状態に入ると、ネット同期コピーは受信者がオンラインになるのを待機する状態になります。この時点で、オンラインの受信側が受信側リストに表示されます。

ネットコピー・送信側



>>>1.受信機の接続中...

2.コピーするパーティションを選択

3.データの転送

4.完成

クイックツール

時間同期(T)

WOL(W)

受信機再起動(R)

受信機シャットダウン(S)

ホスト情報

ハードディスク: 512 GB (1000215216)

ローカルIP: 192.168.10.107

ローカルMAC: 94-C6-91-F9-E6-68

バージョン: 2.1.003-L(433)

システム: 5.4.6.7161

受信機のリスト:

ID	状態	コンピュータ名	現在のIP	IP	MAC
1	オフライン	Test01	192.168.10.107	DHCP	94-C6-91-F9-E6-68
2	オンライン	Test02	192.168.10.100	DHCP	94-C6-91-F9-E5-26

合計: 2オンライン: 1ローカルID: 1

変更

変更(E)... 削除(D) BM/パラメータを同期(S) 復元パラメータを同期(U)

ロードリスト(L) リストを保存...(A) リストを同期(Q)...

<< 戻る 次へ>> キャンセル

ステップ 3:他の 1 台以上のクライアント側のバックアップ管理機能を起動してください。
60 秒のカウントダウン内に受信側を選択すると、ネット同期コピーの受信側に移動します



ステップ 4:この時点でネット同期コピー受信者を入力すると、ネットワーク内の送信者が自動的にクエリされ、クエリされた送信者のリストに表示されます。接続する受信側を選択し、[ログイン] をクリックします;送信者が選択されていない場合、システムは 15 秒のプリセットカウントダウン後に、制御されたエンドのリストの最初の送信者を自動的に選択します。



ステップ 5: ネット同期コピーするすべての受信者がオンラインになると、送信者はすべてのオンライン受信者を右側に表示します。すべての受信側がオンラインであることを確認してください。ネット同期コピーが開始されると、オンラインではない受信者はログインできなくなります。

受信側のオンライン待ちについての説明

現在オンラインの受信者のリストを保存できます。保存された受信側リストを使用する必要がある場合は、送信側と受信側の接続のためにリストを読み込みます。保存された受信側リストを変更および削除することもできます。

【変更】

<1>送信側では、オンライン上の受信側のネットワーク プロパティを変更できます。受信側の一覧で、ネットワーク プロパティを変更する必要がある受信側を選択し、[変更] をクリックします。



>>>1.受信機の接続中...

2.コピーするパーティションを選択

3.データの転送

4.完成

クイックツール

時間同期(T)

WOL(W)

受信機再起動(R)

受信機シャットダウン(S)

ホスト情報

ハードディスク: 512 GB (1000215216)

ローカルIP: 192.168.10.107

ローカルMAC: 94-C6-91-F9-E6-68

バージョン: 2.1.003-L(433)

システム: 5.4.6.7161

受信機のリスト:

ID	状態	コンピュータ名	現在のIP	IP	MAC
1	オフライン	Test01	192.168.10.107	DHCP	94-C6-91-F9-E6-68
2	オンライン	Test02	192.168.10.100	DHCP	94-C6-91-F9-E5-26

合計: 2オンライン: 1ローカルID: 1

変更(E)...

削除(D)

BM/パラメータを同期(B)

復元/パラメータを同期(Y)

ロードリスト(L)

リストを保存...(A)

リストを同期(U)...

<<戻る

次へ>>

キャンセル

＜2＞受信側のネットワーク プロパティ インターフェイスが表示されます。コンピュータ名、IP、DNS、およびドメイン設定を変更し、[OK] をクリックして設定を保存できます。; 設定をリセットするには、[変更を元に戻す]をクリックします。

☐ この設定を次へ適用

コンピュータ名:

Test01

☐ 追加する連番の初期値(E):

1

IPアドレス設定

☐ IPアドレスの設定(I)

初期IPアドレス:

0

0

0

0

サブネットマスク:

255

255

255

0

デフォルトゲートウェイ:

192

168

10

254

☒ IPアドレスを自動的に取得する(P)

DNS設定

☐ DNSを有効にする(D)

優先DNSサーバー(E):

0

0

0

0

代替DNSサーバー:

0

0

0

0

☒ 自動的にDNSサーバーアドレスを取得する(B)

事前設定:

自動的にドメイン設定に参加する(O)

OSの自動更新(C)

Officeの自動有効化(G)

IPv6 アドレスを設定する(V)

元に戻す変更

OK

注意:

〈1〉残りの受信側コンピュータ名とIPを加算します。: 複数の受信側のネットワーク プロパティを変更する場合は、最初の受信者のコンピュータ名と IP に基づいて、1 を加算して変更できます。たとえば、最初のコンピュータ名を test に設定し、カスタム拡張の開始値を 0 に設定し、[残りの受信側コンピュータ名と IP を加算]チェックボックスをオンにします。残りの受信側のコンピュータ名は test1、test2、test3... に設定され、IP アドレスも自動的に 1 を加算されます。



>>>1.受信機の接続中...

2.コピーするパーティションを選択

3.データの転送

4.完成

クイックツール

時間同期(T)

WOL(W)

受信機再起動(R)

受信機シャットダウン(S)

ホスト情報

ハードディスク: 512 GB (1000215216)

ローカルIP: 192.168.10.107

ローカルMAC: 94-C6-91-F9-E6-68

バージョン: 2.1.003-L(433)

システム: 5.4.6.7161

受信機のリスト:

ID	状態	コンピュータ名	現在のIP	IP	MAC
1	オフライン	Test01	192.168.10.107	DHCP	94-C6-91-F9-E6-68
2	オンライン	Test02	192.168.10.100	DHCP	94-C6-91-F9-E5-26

合計: 2オンライン: 1ローカルID: 1

変更(E)...

削除(D)

BMパラメータを同期(K)

復元パラメータを同期(L)

ロードリスト(L)

リストを保存...(A)

リストを同期(I)...

<< 戻る

次へ>>

キャンセル

〈2〉ドメインへの参加と終了:

ドメインへの参加:ドメインに参加するか、ドメインを終了する必要がある受信側を選択します。ネットワーク プロパティ設定画面を開き、[ドメイン設定] リストで、[ドメインに参加] をオンにします。ドメイン名、ユーザー名、およびパスワードに属し、ネット同期コピー後にクライアント側コンピュータのドメインへの参加を自動的に実行します。

ドメインを終了する:[ドメインに参加] オプションのチェックを削除します。ネット同期コピー後、クライアント側コンピュータが自動的にドメインを終了する操作を実行します。

ドメイン設定

☐ ドメインに参加

ユーザー名:

パスワード:

OK キャンセル

<3>オペレーティングシステムを自動的に起動する:

自動起動しない: ネット同期コピー完了後、受信側のコンピュータが Windows システムに初めて入ったときにオペレーティングシステムを起動する操作を自動的に実行しません;

MAK 認証を自動的に開始する: ネット同期コピー完了後、受信側コンピュータが Windows システムに初めて接続されると、自動的にインターネットに接続し、オペレーティング システムを起動します;

KMS 認証の自動開始: ネット同期コピー完了後、受信側のコンピュータが Windows システムに初めて接続され、KMS サーバーがオペレーティング システムを起動するために自動的に接続されます。

OSを自動起動する

☐ 自動起動なし

☐ MAK自動有効化

☒ KMS自動アクティベーション

サーバ: 192 168 50 50

OK キャンセル

【リストを保存】

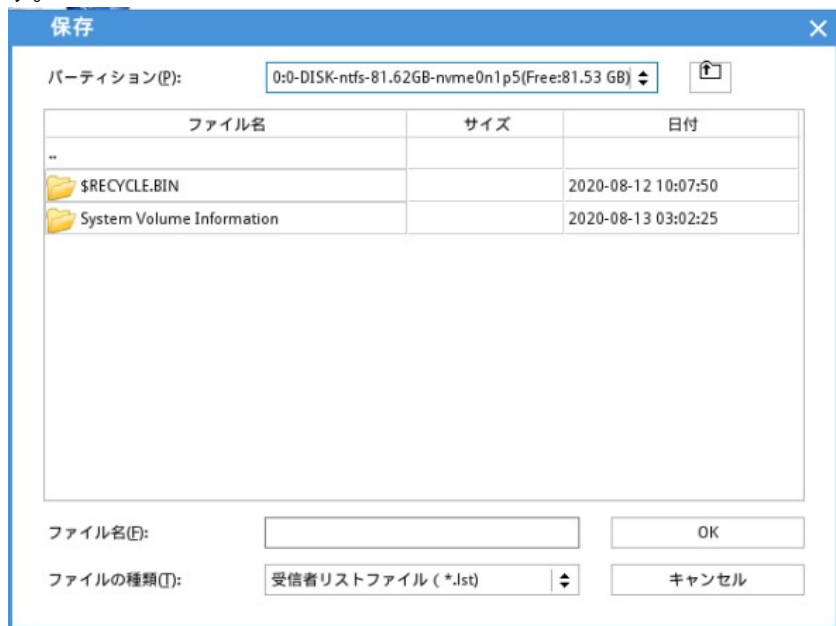
＜1＞現在の送信側インターフェイスの右側に表示されるアップライン受信側のリストを、バックアップ用のリストとして保存できます。インターフェイスの受信側リストにある「リストの保存」ボタンをクリックして、インターフェイスの保存に入ります。



＜2＞システムの既定の場所を選択するか、カスタム パスにリスト プロファイルを配置できます。



カスタムオプションを選択し、*** をクリックしてパス選択画面に入り、ファイルを保存するパスを選択します。パス選択インターフェイスを開き、ファイルが保存されているパスを選択し、受信者リストのファイル名をカスタマイズして、[OK]をクリックします。



＜3＞保存パスを選択したら、[OK] をクリックします。現在の受信側リストは、指定されたパスに保存されます。

ネットコピー・受信リストを保存する

☐ デフォルトフォルダ
☒ カスタムフォルダ

【リストを削除】

受信側リストの受信側が一時的にログインしないようにする場合は、ネット同期コピーを行わずに、マウスを使用して削除したいクライアントを選択できます。一度に複数のユーザーを削除する場合は、Ctrl キーを押しながら、受信側リストの受信側をクリックし、[削除] をクリックします。

ネットコピー・送信側



>>>1.受信機の接続中...

2.コピーするパーティションを選択

3.データの転送

4.完成

ウィックツール

時間同期(T)

WOL(W)

受信機再起動(R)

受信機シャットダウン(S)

ホスト情報

ハードディスク: 512 GB (1000215216)

ローカルIP: 192.168.10.107

ローカルMAC: 94-C6-91-F9-E6-68

バージョン: 2.1.003-L(433)

システム: 5.4.6.7161

受信機のリスト:

ID	状態	コンピュータ名	現在のIP	IP	MAC
1	オフライン	Test01	192.168.10.107	DHCP	94-C6-91-F9-E6-68
2	オンライン	Test02	192.168.10.100	DHCP	94-C6-91-F9-E5-26

合計: 2オンライン: 1ローカルID: 1

変更(E)...

ロードリスト(L)

削除(D)

リストを保存...(A)

BM/パラメータを同期(S)

リストを同期(U)...

変更

復元パラメータを同期(U)

<<戻る

次へ>>

キャンセル

注意:

クライアントリストでクライアントを削除した後、クライアントは送信者を再度検索します。そして、再びその送信側にログインします。したがって、ユーザーは、削除操作の完了後 1 分以内に次のアクションを実行することをお勧めします。

【リストの読み込み】

＜1＞保存された受信側のリストを読み込む場合は、インターフェイスの右側にある「リストを読み込む」ボタンをクリックします。システムのデフォルトの場所に保存された受信側情報が自動的に表示されます。

ネットコピー-受信リスト

☒ デフォルトフォルダ
☐ カスタムフォルダ

受信機プレビュー:

コンピュータ名	IP	MAC	ドメイン
Test01	DHCP	94-C6-91-F9-E6-68	
Test02	DHCP	94-C6-91-F9-E5-26	

OK キャンセル

＜2＞カスタムの場所を選択し、以前に保存した受信側情報を読み込むことができます。リストが表示されたらインターフェイスを選択し、ロードする必要がある受信側リストがあるフォルダを選択し、リストを選択します。次に、[OK] をクリックします。

開く

パーティション(P): 0:0-DISK-ntfs-81.62GB-nvme0n1p5(Free:81.53 GB)

ファイル名	サイズ	日付
..		
\$RECYCLE.BIN		2020-08-12 10:07:50
System Volume Information		2020-08-13 03:02:25

ファイル名(F):

ファイルの種類(T): 受信者リストファイル (*.lst)

OK キャンセル

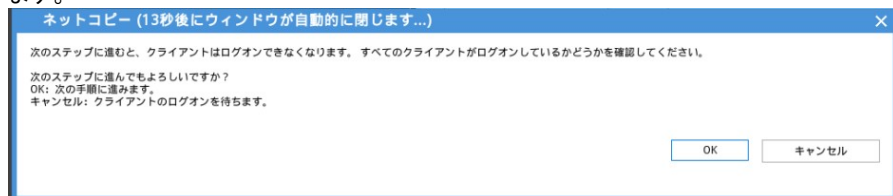
＜3＞受信側リストを読み込むインターフェイスで、選択した受信側リストの情報のプレビューを行い、受信側リスト内のすべての受信側のコンピュータ名、同期コピー後の IP アドレスと MAC アドレス、および所有するドメインを表示します。



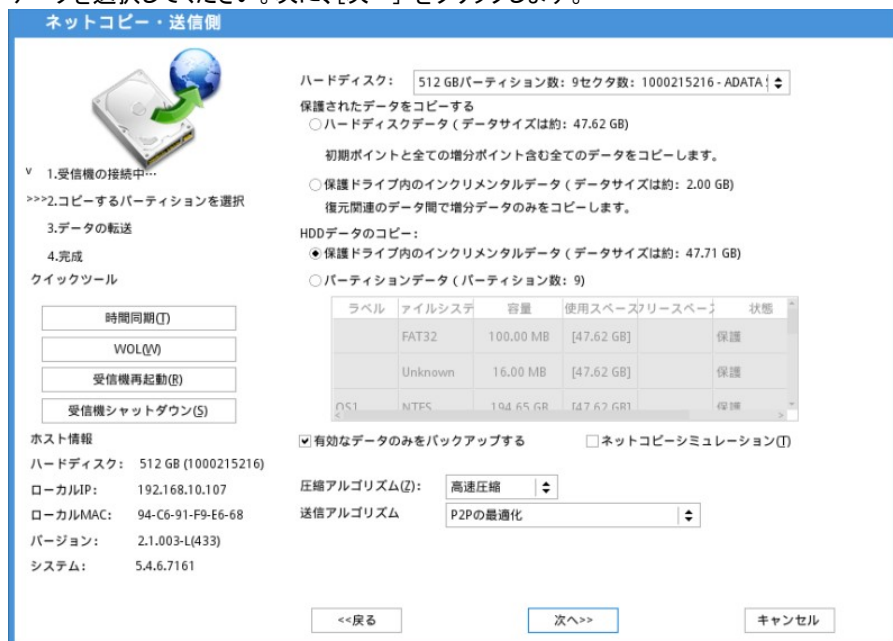
＜4＞リストの読み込みを確認したら、[確認] をクリックすると、リストの読み込みが成功します。システムは、送信側インターフェイスの右側の受信側リストに、リストファイル内の受信側情報を表示します。



ステップ 6: 受信側の一覧にすべての受信側がログインしたら、[次へ] をクリックして、同期コピーデータ選択画面に移動します。この時点で、すべての受信者がログインしていることを確認後、プロンプトインターフェイスが表示されます。そうでない場合、新しく起動した受信者はデータを同期コピーできません。次のステップに進むには、[はい] をクリックします。



ステップ 7: データ同期コピー画面に入った後、指定したハードディスクの同期コピーするデータを選択してください。次に、[次へ] をクリックします。



同期コピーデータの説明を選択する

ハードドライブ: 送信側で増分同期コピーを行うハードディスクを選択します。送信側のソースハードディスク容量は、受信側のハードディスク容量を超えることはできません。

【データの復元を同期コピーする】

すべてのデータを復元: 送信側のすべての復元データを受信側に同期コピーして上書きします。

増分復元データ: 送信側で新しく作成された動的復元データを受信側に転送します。

注意: ネット同期コピーが初めて実行された場合、または送信側コンピュータで復元されたデータの状态が受信側コンピュータと同じである場合、増分復元データの項目はグレー状態として表示されます。

【ハードドライブのデータを同期コピーする】

ハードディスク データ: 送信側のすべてのハード ディスクデータを受信側ハード ディスクに転送して上書きします。

パーティション データ: 送信側で指定されたパーティションデータを受信側のハード ディスクに転送します。

有効なデータのみをコピーする: 保護パーティション内の有効なデータのみがコピーされ、残りのデータはコピーされません。

圧縮を有効にする: 圧縮を有効にすると、ファイル転送を高速化できますが、計算された転送完了時間は正確ではありません。

転送アルゴリズム: 伝送アルゴリズムは帯域幅に応じて選択されますが、アルゴリズムが異なると、伝送速度に異なる影響があります。ネットワーク環境と一貫性のあるトランスポート アルゴリズムを選択して増分同期コピーを実行すると、データの転送速度が大幅に向上します。

圧縮アルゴリズム(Z):

高速圧縮



送信アルゴリズム

P2Pの最適化



自動: プログラムは、現在のネットワーク環境を自動的に判断し、その後、自動的にメガネットの最適化またはギガビットネットワークの最適化を選択します。

100 メガネットの最適化: 100 メガネットワークのアルゴリズムによるデータ転送

ギガネットの最適化: ギガビットネットワークのアルゴリズムによるデータ転送

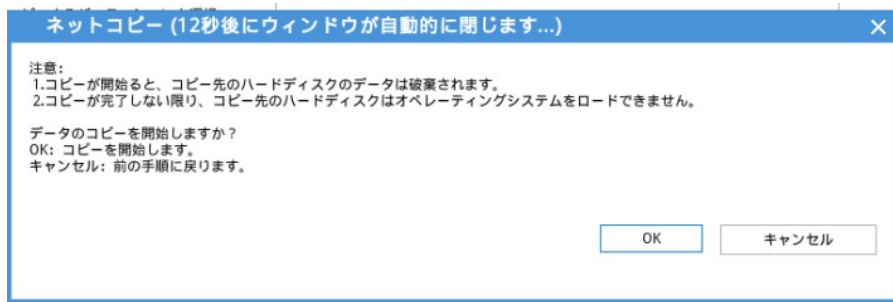
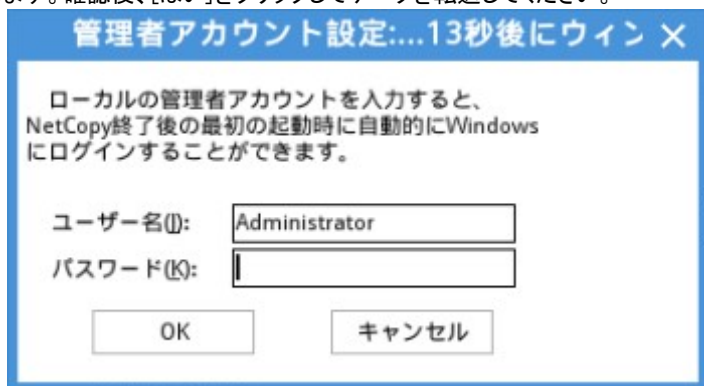
注意:

<1>現在のネットワーク環境に適したトランスポート アルゴリズムを選択して、増分同期コピーを実行します。これにより、データの転送速度が大幅に向上します。ネットワーク環境が複雑かつ可変であるため、一部の 100 ギガビット ネットワークでは

、ギガビット ネットワーク最適化アルゴリズムの方が優れているか、またはその逆もあります。したがって、転送速度が理想的でない場合は、別の転送アルゴリズムを試すことができます。

〈2〉ネット同期コピーは NTFS、FAT32 / 16/12 ファイルシステムをサポートし、他の種類のファイルシステムは有効なデータをコピーできません。ユーザーが選択したパーティションにこのようなパーティションがある場合、プログラムはそのパーティション内のすべてのセクタ データを自動的に同期コピーします。

ステップ 8: データ転送画面に入ると、プロンプト インターフェイスが表示されます。転送を開始すると、前の手順に戻ることはできません。受信者は、送信の完了後にのみオペレーティングシステムに入ることができます。そうしないと、受信者のハードディスクデータが破壊されます。確認後、[はい]をクリックしてデータを転送してください。



ステップ 9: ネット同期コピーのデータを送信しています。

ネットコピー・送信側



1.受信機の接続中...

2.コピーするパーティションを選択

>>>3.データの転送

4.完成

クイックツール

時間同期(T)

WOL(W)

受信機再起動(B)

受信機シャットダウン(S)

ホスト情報

ハードディスク: 512 GB (1000215216)

ローカルIP: 192.168.10.107

ローカルMAC: 94-C6-91-F9-E6-68

バージョン: 2.1.003-L(433)

システム: 5.4.6.7161

イメージファイル名: 合計: 2オンライン: 1ローカルID: 1

ID	状態	コンピュータ名	瞬时帯域幅◆	現在のIP	
2	オンライン	Test02	8.27 GB/Min	192.168.10.100	DH

ハードディスクデータの転送 しばらくお待ちください...

2.71%

合計データ: 48.10 GB 時間経過: 00:00:06

完了: 1.31 GB 残り時間: 00:03:45

残り: 46.79 GB 平均レート: 12.43 GB/Min

アルゴリズム送信 P2Pの最適化

アルゴリズム圧縮 高速圧縮

終了後: 再起動

帯域幅の制限: 速度制限なし

初回システム起動時の待ち時間: 60秒


一時停止

<<戻る 終了 キャンセル

ヒント

送信側の受信側のリストが空の場合、送信者を使用してネットワークコピーを実行すると、プロンプトウィンドウが表示されます。転送を続行するには、[OK] をクリックし、前の手順に戻るには[キャンセル] をクリックします。

ネットコピー・送信側



>>>1.受信機の接続中...

2.コピーするパーティションを選択

受信機のリスト:

ID◆	状態	コンピュータ名	現在のIP	IP	MAC
1	オフライン	T01	192.168.10.107	DHCP	94-C6-91-F9-E6-68
2	オフライン	T02	0.0.0.0	DHCP	94-C6-91-F9-E5-26

ネットコピー (13秒後にウィンドウが自動的に閉じます...)

現在、クライアントはログオンしていません。次のステップに進むと、クライアントはログオンできなくなります。テストでない場合は、クライアントがログオンするまで次のステップに進まないでください。

次のステップに進んでもよろしいですか？

OK: 次の手順に進みます。

キャンセル: クライアントのログオンを待機します。

OK キャンセル

ハードディスク: 512 GB (1000215216)

ローカルIP: 192.168.10.107

ローカルMAC: 94-C6-91-F9-E6-68

バージョン: 2.1.003-L(433)

システム: 5.4.6.7161

合計: 2オンライン: 0ローカルID: 1

変更

変更(D)... 削除(D) SMパラメータを同期(S) 復元パラメータを同期(R)

ロードリスト(L) リストを保存(A) リストを同期(O)

<<戻る 次へ>> キャンセル

ステップ 10: データ転送では、送信側は選択したネット同期コピーデータの種別を指定された受信側のハードディスクに送信します。この時点で、送信状態がインターフェイスに表示され、転送の平均速度を設定したり、転送が完了した後にコンピュータを再起動したりすることもできます。

ネットコピー・送信側



1.受信機の接続中...

2.コピーするパーティションを選択

>>>3.データの転送

4.完成

クイックツール

時間同期(T)

WOL(W)

受信機再起動(R)

受信機シャットダウン(S)

ホスト情報

ハードディスク: 512 GB (1000215216)

ローカルIP: 192.168.10.107

ローカルMAC: 94-C6-91-F9-E6-68

バージョン: 2.1.003-L(433)

システム: 5.4.6.7161

イメージファイル名: 合計: 2オンライン: 1ローカルID: 1

ID	状態	コンピュータ名	瞬时帯域幅	現在のIP	
2	オンライン	T02	5.54 GB/Min	192.168.10.100	DH

ハードディスクデータの転送 しばらくお待ちください...

1.72%

合計データ: 48.74 GB 時間経過: 00:00:04

完了: 862.85 MB 残り時間: 00:04:07

残り: 47.90 GB 平均レート: 11.62 GB/Min

アルゴリズム送信 P2Pの最適化

アルゴリズム圧縮: 高速圧縮

終了後: 再起動

帯域幅の制限: 速度制限なし

初回システム起動時の待ち時間: 60秒 一時停止

<<戻る 終了 キャンセル

データ転送インターフェイスの説明

<1>送信中、プログラムは個々の受信側の速度伝送状態を自動的に判断します。クライアントの伝送速度が平均速度よりも低い場合、受信端リストのクライアントは赤で表示されます。色が濃いほど、平均速度との差が大きくなります。

<2>完成後の操作

終了後:

再起動

受信側のみをシャットダウン: ネット同期コピー終了後、受信側のコンピュータのみをシャットダウンします;

シャットダウン: ネット同期コピー終了後、送信側と受信側のコンピュータの両方がシャットダウンを実行します;

再起動: ネット同期コピー終了後、送信側と受信側のコンピュータの両方が再起動を実行します。

<3>帯域幅制限のオペレーション:

帯域幅の制限:

速度制限なし

ユーザーは、現在のネットワーク状態に合わせて帯域幅制限のサイズを自分で選択できます。

受信側に表示されるデータ送信インターフェイスは図のようになります

ステップ 11: 転送中に転送を中断する場合は、[キャンセル] をクリックすると、プロンプトインターフェイスが表示されます。[終了] をクリックすると、システムはコンピュータを終了してシャットダウンします。実行モードを再選択するには、[いいえ] をクリックします。トランスポート画面に戻るには、[キャンセル] をクリックします。特別なニーズなしにデータ転送を中断しないことをお勧めします。

ネットコピー・送信側



イメージファイル名: 合計: 2オンライン: 1ローカルID: 1

ID	状態	コンピュータ名	順時帯域幅	現在のIP	
2	オンライン	T02	9.55 GB/Min	192.168.10.100	DH

1.受信機の接続中...

2.コピーするパーティションを選択

>>>3.データの転送

4.完成

クイックツール

時間

W

受信機

受信機シ

ネットコピー (13秒後にウィンドウが自動的に閉じます...)

プログラムを終了するか、実行モードを再度選択しますか？
シャットダウンします: コンピュータを終了しシャットダウンします。[デフォルト]
いいえ: 実行モードをもう一度選択します。
キャンセル: 終了しません。

シャットダウン 終了 キャンセル

ホスト情報

ハードディスク: 512 GB (1000215216)

ローカルIP: 192.168.10.107

ローカルMAC: 94-C6-91-F9-E6-68

バージョン: 2.1.003-L(433)

システム: 5.4.6.7161

アルゴリズム圧縮: 高速圧縮

終了後: 再起動

帯域幅の制限: 速度制限なし

初回システム起動時の待ち時間: 60秒

一時停止

<<戻る 終了 キャンセル

ステップ 12: 転送が完了したら、[完了]をクリックすると、次のウィンドウがポップアップして、データの送信が完了したことを通知します。



ウィンドウが消えたら、[完了]をクリックして送信コンピュータを閉じます。

注意:

<1>ネット同期コピーの処理中に中断が発生した場合、送信者は受信者のコピーステータスを自動的に判断し表示します。

網路對拷 - 傳送失敗的接收端列表

以下接收端傳輸時失敗，請使用“斷點續傳”功能進行續傳：

對拷後IP	MAC	錯誤
192.168.253.41	6C-F0-49-28-6B-41	未知錯誤，該錯誤可能是因為程式崩潰或強制關機導致

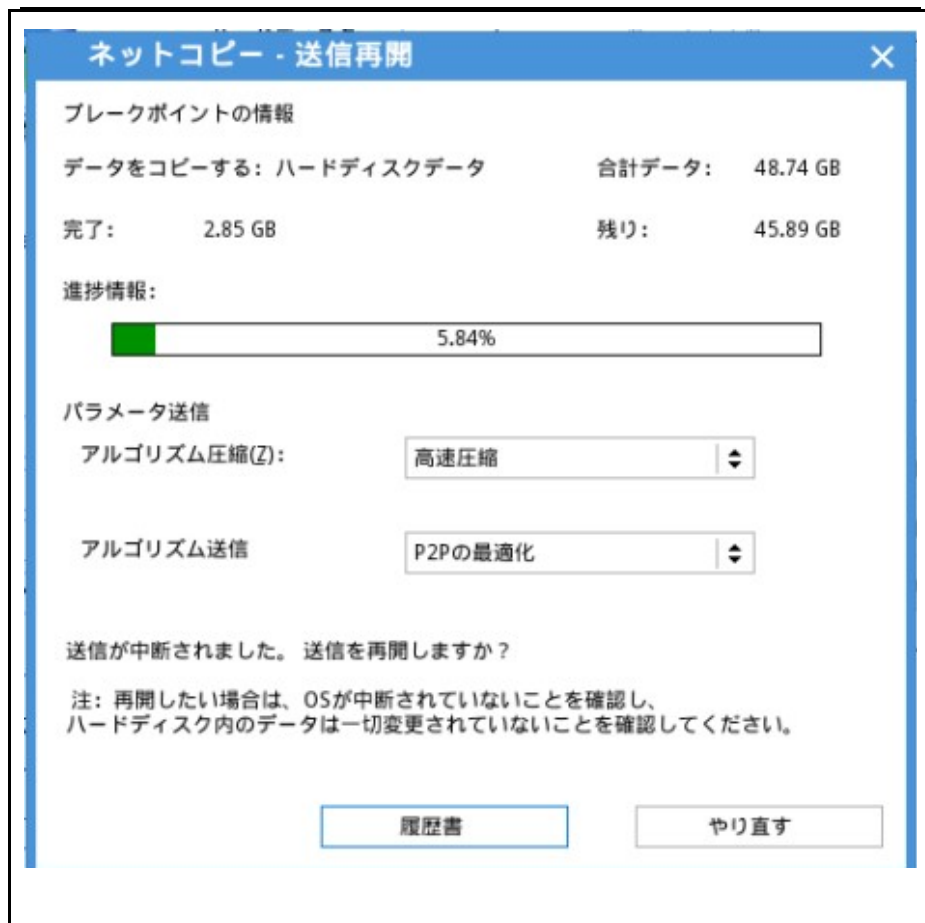
詳細步驟：

- 1.開啟上面列表中的接收端電腦，然後等待接收端上線。
- 2.在選擇“對拷資料”時彈出的“中斷點續傳”對話方塊中選擇“中斷點續傳”。
- 3.點擊“確定”後，會進入等待接收端上線狀態。

確定

※この画像では、中国語（繁体字）で表示されていますが、実行時には日本語で表示されます。

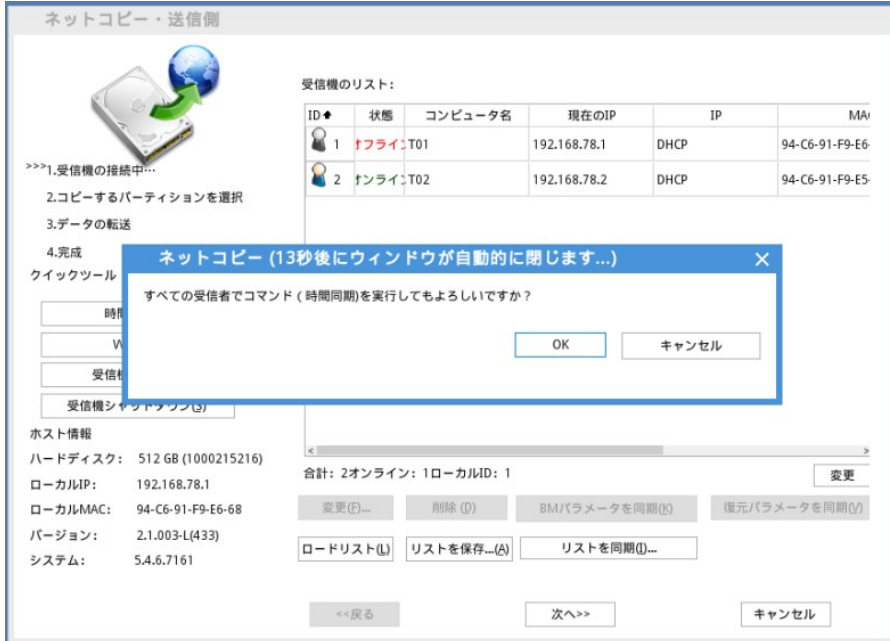
＜2＞ネット同期コピー機能は、中断を再開する機能を提供します。転送を続行するか、必要に応じてコピー方法を再選択するかを選択できます。送信コンピュータが Windows オペレーティングシステムにある場合、ブレークポイント情報は保持されません。ブレークポイントの継続インターフェイスは次のようになります。



【クイックツール】

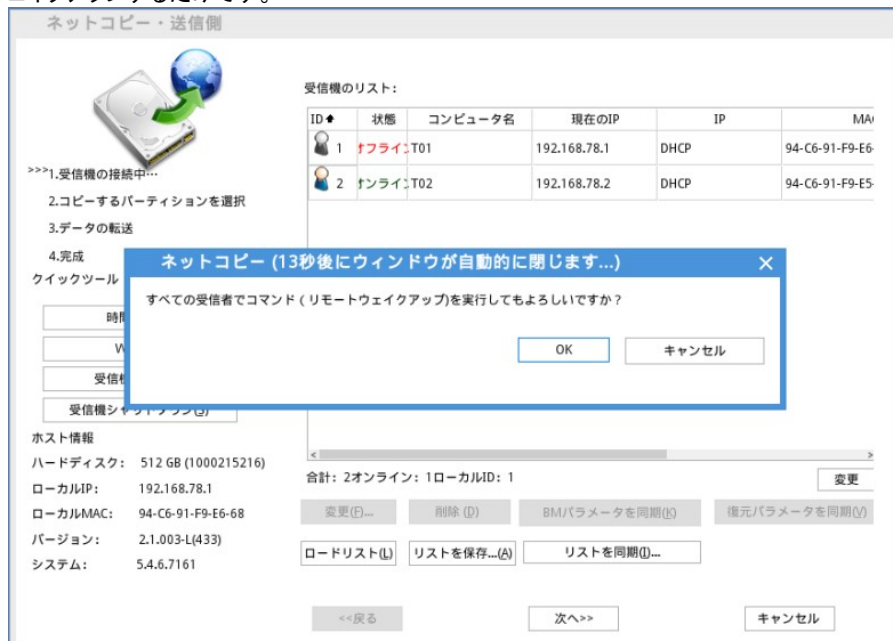
同期クロック:

この機能は、受信側と送信側のシステム時刻を同期し、受信側のシステム時刻を送信側と同じにします。



リモート ウェイクアップ:

リモートウェイクアップ機能を実行して、左側のリストにリストされている受信コンピュータをウェイクアップします。右側のリストに選択された受信側がない場合、プログラムはリスト内のすべての受信側をウェイクアップします。それ以外の場合は、選択した受信側をウェイクアップするだけです。

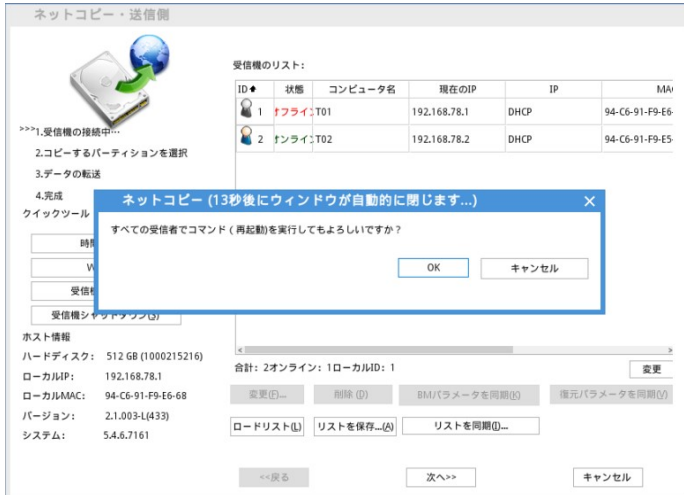


注意:

受信側の異常なシャットダウンにより、リモートウェイクアップ機能が使用できなくなる場合があります。通常のシャットダウン状態でリモートウェイクアップ機能を使用してください。

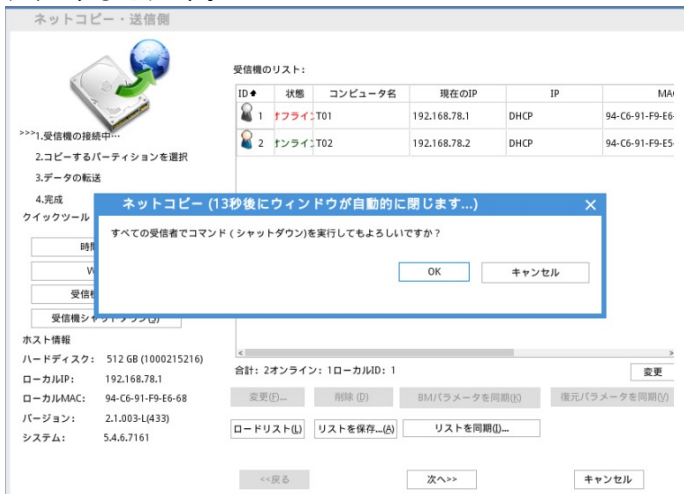
受信側の再起動:

この機能は、すべての受信側コンピュータまたは選択した受信側コンピュータを再起動します。右側のリストに受信側が選択されていない場合、すべての受信側が再起動されます。それ以外の場合は、選択した受信側のみを再起動します。



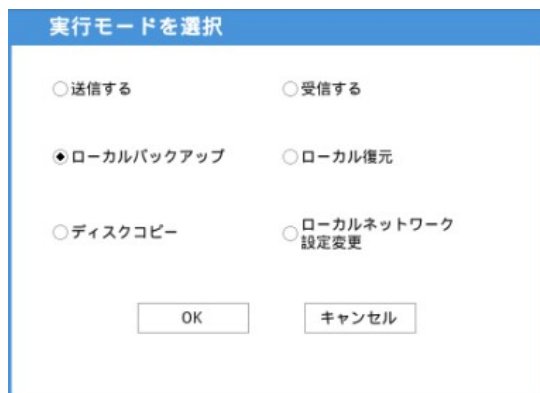
受信側のシャットダウン:


この機能は、すべての受信側コンピュータまたは選択した受信側コンピュータをシャットダウンできます。右側のリストに受信側が選択されていない場合、すべての受信側コンピュータがシャットダウンされます。それ以外の場合は、選択した受信側コンピュータをシャットダウンするだけです。



8.3 .ローカル バックアップ

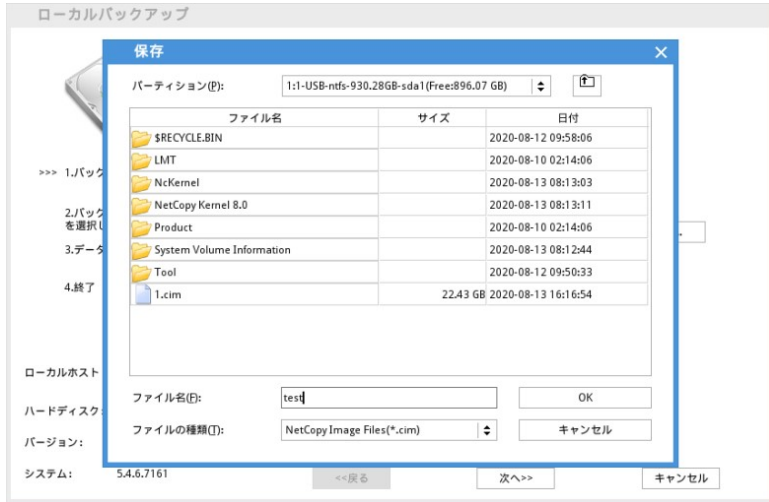
ステップ 1: バックアップ管理に入った後、ローカルバックアップオプションを選択し、[OK]をクリックして入力します。



ステップ 2: ローカル バックアップ画面に入ると、ボタン  をクリックしてストレージパスを選択します。



ステップ 3: 保存する必要があるパーティションを選択し、バックアップのファイル名を入力して、[確認] をクリックします。



ステップ 4: バックアップファイルのストレージパスを選択したら、パス選択画面に戻ります。このスロットのストレージパスがインターフェイスに表示され、[次へ] をクリックします。



ステップ 5: [バックアップ データ の選択] 画面に入ったら、指定したハード ディスクでバックアップするデータを選択します。次に、[次へ] をクリックします。

ローカルバックアップ



ハードディスク: 512 GBパーティション数: 9セクタ数: 1000215216 - ADA

保護されたデータをバックアップする

☐ ハードディスクデータ (データサイズは約: 48.01 GB)

初期ポイントと全ての増分ポイントを含む全てのデータをバックアップします。

バックアップHDDデータ:

☒ 保護ドライブ内のインクリメンタルデータ (データサイズは約: 48.10 GB)

☐ パーティションデータ (パーティション数: 9)

1.バックアップ先を選択

2.バックアップするパーティションを選択します。

3.データをバックアップする。

4.終了

ローカルホスト

ハードディスク: 512 GB (1000215216)

バージョン: 2.1.003-L(433)

システム: 5.4.6.7161

ラベル	ファイルシステム	容量	使用スペース/フリースペース	状態
	FAT32	100.00 MB	[48.01 GB]	保護
	Unknown	16.00 MB	[48.01 GB]	保護
OS1	NTFS	194.65 GB	[48.01 GB]	保護
	NTFS	563.00 MB	[48.01 GB]	保護
	FAT32	99.00 MB	[48.01 GB]	保護

☒ 有効なデータ(V)のみをバックアップする

圧縮アルゴリズム(Z): 高速圧縮

<<戻る 次へ>> キャンセル

バックアップ データ画面選択の説明

ハードドライブ:バックアップするハード ディスクを選択します。

【復元データのバックアップ】

すべてのデータの復元:復元されたすべてのデータをファイルにバックアップします。

増分復元データ: このオプションはローカルバックアップモードでは使用できないため、常にグレー表示されます。

【ディスク データのバックアップ】

ハード ディスク データ:すべてのハードドライブデータをファイルにバックアップします。

パーティションデータ:指定したパーティションデータをファイルにバックアップします。

有効なデータのみをバックアップする:選択したパーティション内の有効なデータのみがバックアップされ、残りのデータはバックアップされません。それ以外の場合、プログラムはパーティションが使用されているかに関係なく、ハードディスクまたは選択されたパーティション上のすべてのデータをバックアップします。

圧縮を有効にする:圧縮を有効にすると、バックアップを高速化し、ディスク領域を節約できます。ただし、計算された転送完了時間は正確ではありません。

注意：

ローカル バックアップは、NTFS、FAT32/16/12 のファイル システムをサポートします。他のタイプのファイルシステムは、有効なデータをローカルに保持できません。ユーザーが選択したパーティションにそのようなパーティションがある場合、プログラムはパーティション内のすべてのデータを自動的に同期コピーします。

ステップ 6: プロンプト インターフェイスが表示され、バックアップを実行するには、[OK] をクリックします。

管理者アカウント設定:...14秒後にウィン X

ローカルの管理者アカウントを入力すると、
NetCopy終了後の最初の起動時に自動的にWindows
にログインすることができます。

ユーザー名(U):

パスワード(P):

ローカル作成 (12秒後にウィンドウが自動的に閉じます...) X

注意: バックアップ開始すると、元に戻すことができません。

データのバックアップを開始しますか?
OK: バックアップを開始します。
キャンセル: 前のステップに戻る。

ステップ 7: バックアップ進行中の間、お待ちください。バックアップの完了後に、スキップ、シャットダウン、または再起動を選択できます。

ローカルバックアップ



ハードディスクのデータをバックアップ。しばらくお待ちください...

3.87%

▼ 1.バックアップ先を選択	合計データ:	48.49 GB	経過時間:	00:00:06
▼ 2.バックアップするパーティションを選択します。	完了:	1.88 GB	残り時間:	00:02:28
>>> 3.データをバックアップする。	残り:	46.61 GB	平均レート:	18.80 GB/Min
4.終了	圧縮アルゴリズム:	高速圧縮		
	終了後:	<input type="button" value="再起動"/>	<input type="button" value="一時停止"/>	

ローカルホスト

ハードディスク: 512 GB (1000215216)

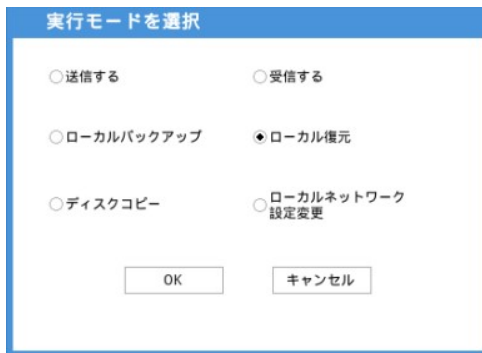
バージョン: 2.1.003-L(433)

システム: 5.4.6.7161

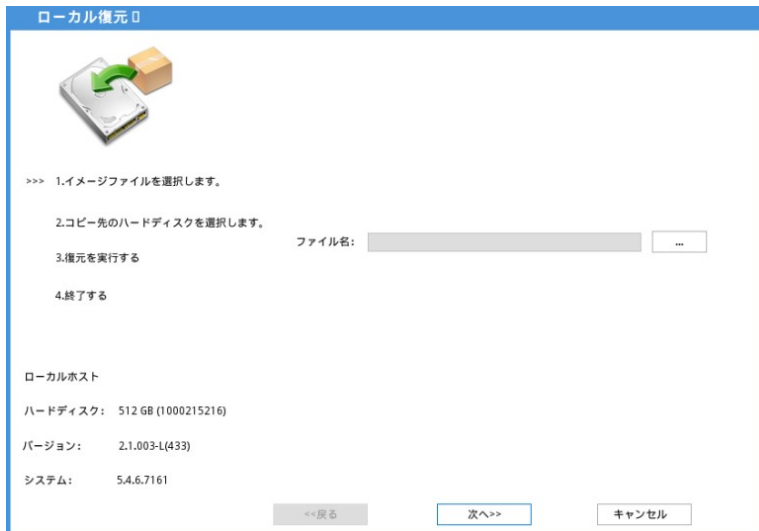
ステップ 8: バックアップが完了したら、[OK] をクリックします。セットアップが完了すると、コンピュータのシャットダウン/再起動が実行されます。

8.4. ローカルリカバリ

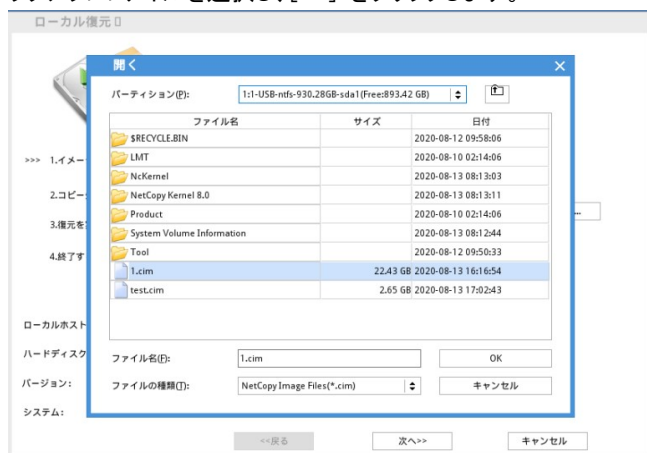
ステップ 1: バックアップ管理に入った後、ローカルリカバリオプションを選択し、[OK]をクリックします。



ステップ 2: 復元するバックアップファイルを選択します。[ローカルバックアップ ファイル パスの選択]をクリックします。



ステップ 3: バックアップファイル選択画面で、復元するパーティションの場所を選択し、バックアップファイルを選択し、[OK] をクリックします。



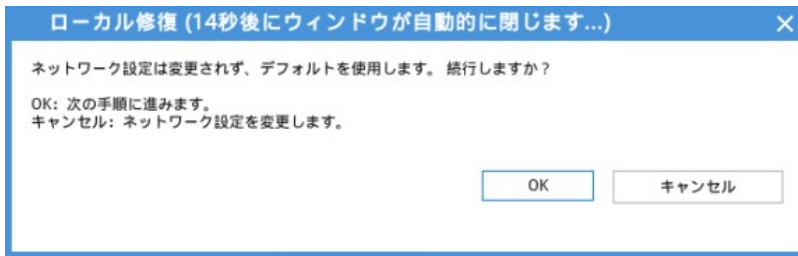
ステップ 4: バックアップファイルのパスを選択したら、リカバリハードドライブを選択してください。次に[OK]をクリックすると、システムはバックアップイメージファイルをターゲットハードディスクに復元します。



注意:

[変更] をクリックして、ターゲット ハード ディスクのネットワーク プロパティ情報を変更します。詳細な説明については、増量同期コピーの[変更]の説明を参照してください。

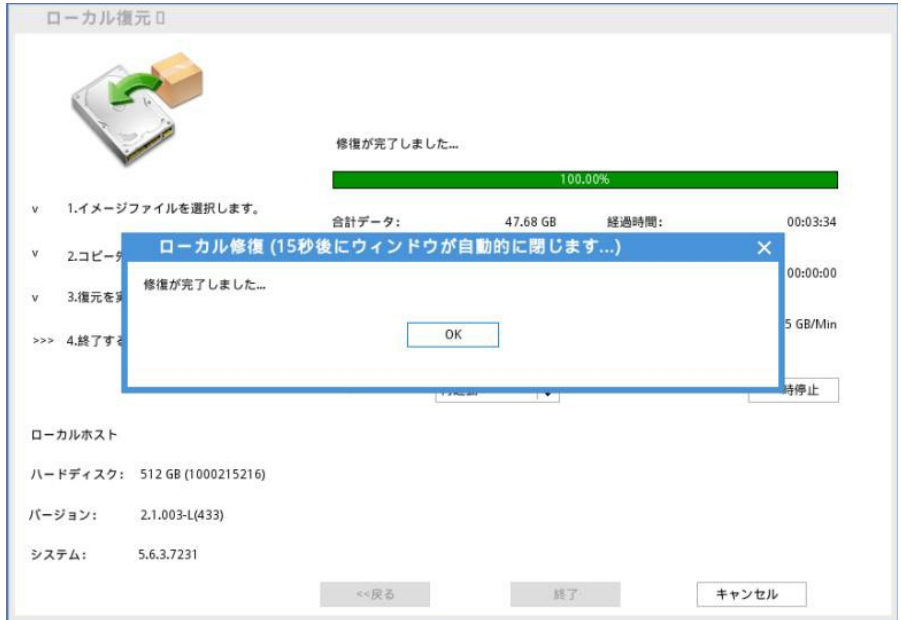
ステップ 5:[次へ] をクリックすると、復元を実行する確認ダイアログ ボックスが表示され、選択したターゲット ハード ディスクが正しいことを確認します。



ステップ 6: 復元進行中の間、お待ちください。スタンバイ、シャットダウン、または再起動を完了するように選択できます。図のように:



ステップ 7: ローカルリカバリが完了すると、以下のウィンドウがユーザーにポップアップ表示されます。



ステップ 8: 復元が完了したら、[OK] をクリックします。システムは完了後、コンピュータのシャットダウン/再起動/スタンバイなどの命令に従います。

注意:

ハードドライブのローカルリカバリを実行した後、コンピュータに最初にインストールされた Windows システムは、ハードウェアやドライバなどを自動的に認識し動的復元ポイントを保存します。

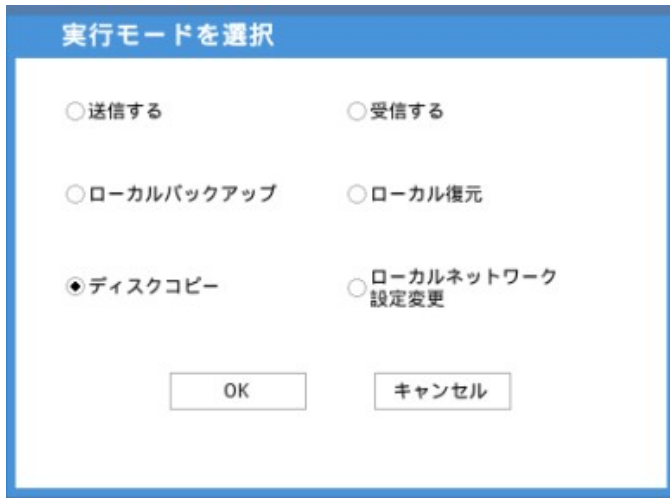
8.5. ハードドライブを同期コピーする

この製品のペアのハード ドライブ機能は、一対多の同期コピーをサポートします。ターゲット ハード ディスクの容量がソース ハード ディスクの容量と同じであることをお勧めします。そうでない場合、同期コピーができない可能性があります。

注意: コンピュータに 2 つ以上のハード ディスクがある場合、ハード ドライブを同期コピーする機能を使用できます。それ以外の場合、この機能は使用できなくなります。


操作は次のとおりです。

ステップ 1: バックアップ管理に入った後、ハードディスクを同期コピーするオプションを選択し、[OK]をクリックして入力します。



ステップ 2: コピーするターゲットハードドライブを選択してください。複数のハード ディスクを選択する必要がある場合は、Ctrl キーを押しながらターゲット ハード ディスクを選択します。

ディスクのコピー



ローカルホスト

ハードディスク 512 GB (1000215216)

バージョン: 2.1.003-L(433)

システム: 5.4.6.7161

デスティネーションハードディスク:

ID	モデル	容量	パーティション数
0	ADATA SX8200PNP0	512 GB	8
1	TS00MX500SSD1(1931E2166615	500 GB	0
2	WDCA WD10EZEX-21W(WCC6Y2JP403P)	1 TB	0

<>

変更(U)

注意:

1.上記のフォームの項目をダブルクリックし、ハードディスクのネットワーク設定を変更します。
 2.Ctrlを押しながら複数の項目をクリックすると、複数のハードディスクを同時に復元できます。
 3.ネットワーク設定をしてない場合、デフォルト設定が適用されます

<<戻る

次>>

キャンセル

注意：

このインターフェイスでは、ハード ディスクの関連ネットワーク情報を変更できます。詳細については、増分同期コピーの[変更]の説明を参照してください。

ステップ 3: データ同期コピー画面に入ったら、指定したハード ドライブで同期コピーするデータを選択します。次に、[次へ] をクリックします。



1. 目的のハードディスクを選択します。

>>> 2. コピーするパーティションを選択します。

3. データのコピー。

4. 終了する

ハードディスク 512 GB / パーティション数: 8 セクタ数: 1000215216 - ADATA SX8200P

保護されたデータをコピーする

☐ ハードディスクデータ (データサイズは約: 48.55 GB)

初期ポイントと全ての増分ポイントを含む全てのデータをコピーします。

☒ 保護ドライブ内のインクリメンタルデータ

復元関連のデータ間で増分データのみをコピーします。

ディスクデータのコピー

☒ 保護ドライブ内のインクリメンタルデータ (データサイズは約: 48.55 GB)

☐ パーティションデータ (パーティション数: 8)

ラベル	ファイルシステム	容量	使用スペース	リリースページ	状態
	FAT32	100.00 MB	[48.55 GB]		保護
	Unknown	16.00 MB	[48.55 GB]		保護
Windows 11	NTFS	194.65 GB	[48.55 GB]		保護

☒ 有効なデータのみをバックアップする

ローカルホスト

ハードディスク 512 GB (1000215216)

バージョン: 2.1.003-L(433)

システム: 5.4.6.7161

<< 戻る

次へ >>

キャンセル

同期コピーデータの画面選択の説明

ハードドライブ: 増分同期コピーの送信側のハードディスクを選択します。送信側のハードディスクの容量サイズは、受信側のハードディスクの容量サイズを超えることはできません。

【復元データのコピー】

すべてのデータを復元: 送信側のすべての復元データを、受信側に同期コピーして上書きします。

増分復元データ: 送信側で新しく作成された動的復元データを受信側に転送します。

注: ターゲット ハードディスクがソース ハードディスクの開始復元データの状態と一致

しない場合、増分復元データはグレー状態で表示されます。

【ハード ディスク データのコピー】

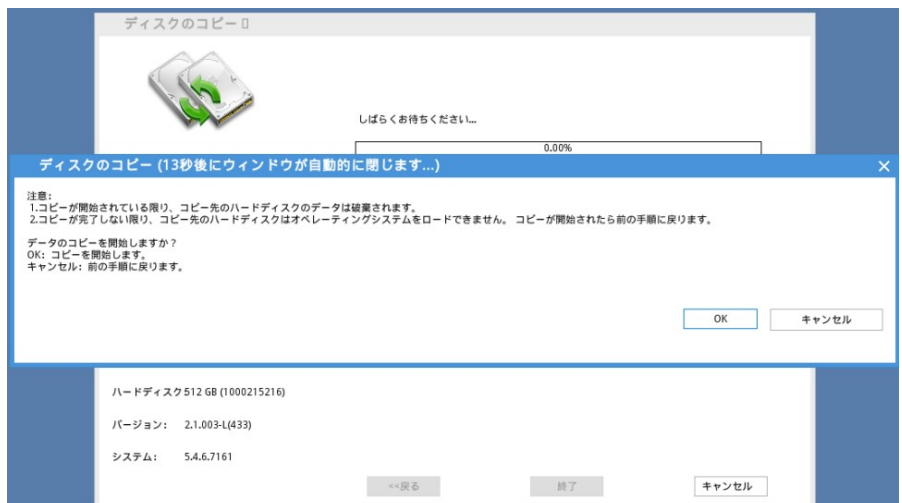
ハード ディスク データ:送信側のすべてのハード ディスクデータを受信側ハード ディスクに転送して上書きします。

パーティション データ:送信側で指定されたパーティションデータを受信側のハード ディスクに転送します。

有効なデータのみを同期コピーする:チェック後、保護パーティション内の有効なデータのみが同期コピーされ、残りのデータは同期コピーされません。

注意:

増分同期コピーは NTFS、FAT32 / 16/12 ファイルシステムをサポートします。他の種類のファイルシステムは有効なデータをコピーできません。ユーザーが選択したパーティションにこのようなパーティションがある場合、プログラムはそのパーティション内のすべてのセクタ データを自動的に同期コピーします。



ステップ 4: データ転送インターフェイスに入ると、プロンプト インターフェイスが表示されます。[はい] をクリックしてデータ転送を行います。

ステップ 5: ハードディスクのデータを同期コピーする操作が開始されました。同期コピーの実行中です。お待ちください。復旧が完了後、何もしない、シャットダウンする、または再起動することを選択できます。



Copying hard disk data. Please wait...

2.32%

1.目的のハードディスクを選択します。

2.コピーするパーティションを選択します。

>>> 3.データのコピー。

4.終了する

合計データ: 48.74 GB 経過時間: 00:00:04

完了: 1.13 GB 残り時間: 00:03:03

残り: 47.61 GB 平均レート: 15.61 GB/Min

終了後:

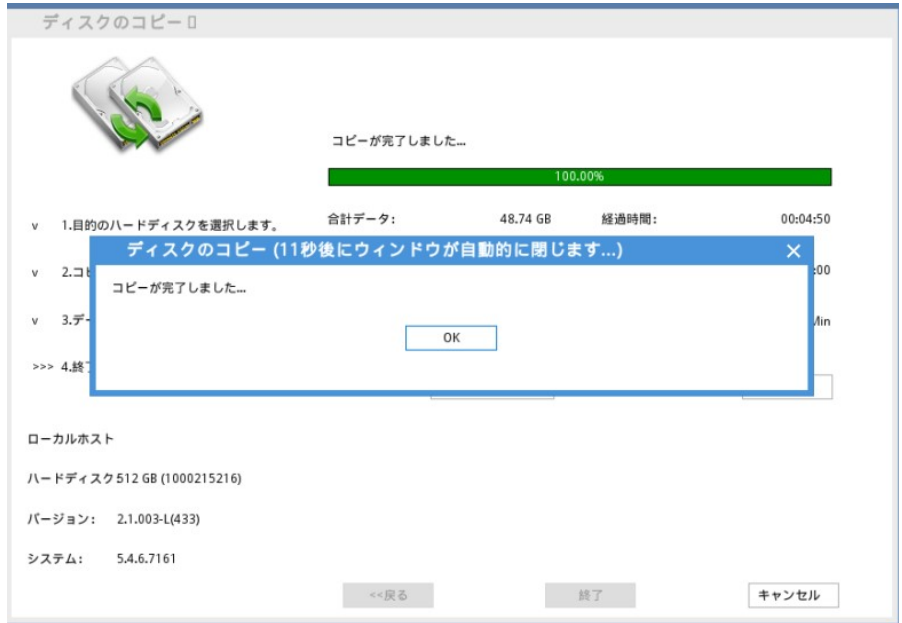
ローカルホスト

ハードディスク 512 GB (1000215216)

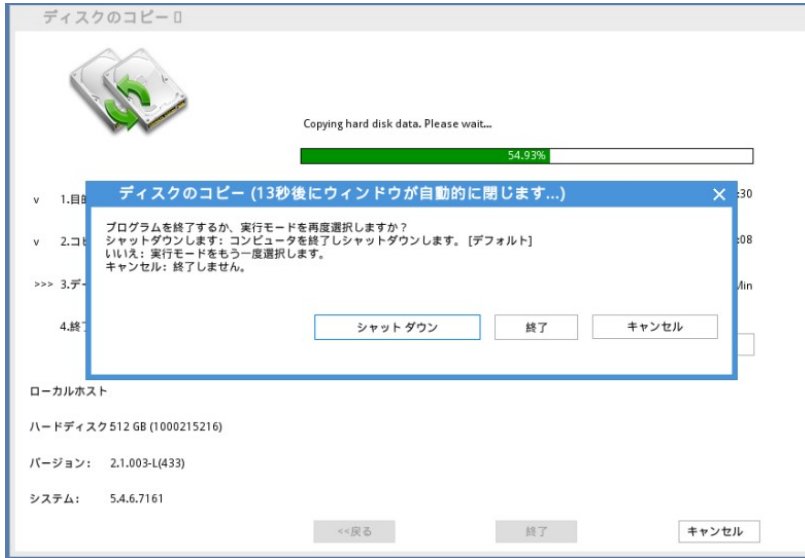
バージョン: 2.1.003-L(433)

システム: 5.4.6.7161

ステップ 6: ハード ディスクデータの同期コピーが終了すると、同期コピー完了のプロンプトウィンドウが表示されます。[OK] をクリックしてください。

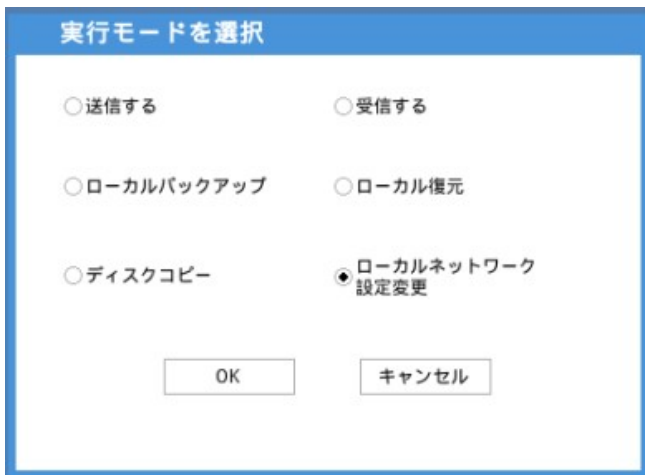


ステップ 7: ハードドライブのコピーが完了したら、選択した操作を実行します。手動で [完了] ボタンをクリックすると、コンピュータのシャットダウンを選択するためのプロンプトウィンドウが表示されます。操作モードを再選択するか、インターフェイスを終了しないください。



8.6. ローカルネットワーク設定を変更

ステップ 1: この製品のクライアント プログラムがインストールされている場合にのみ、ローカル ネットワーク設定を変更するプロジェクトを表示し、ローカル ネットワーク プロパティの変更ができます。バックアップ管理に入り、ネットワーク設定の変更を選択します。



ステップ 2: ローカル ネットワーク設定の変更を選択したら、[OK] をクリックします。ネットワーク設定インターフェイスが表示されます。このインターフェイスでは、ネットワーク IP および DNS 情報をカスタマイズできます。また、ネットワーク IP および DNS 情報を自動的に取得するように設定したり、ドメインに参加するようにこのマシンを設定したりできます。コンピュータが複数のネットワーク カードで構成されている場合は、ネットワーク カード オプションでネットワーク カードをバインドします。バインドされたネットワーク カードは、セットアップが完了するたびにデータ転送が行われます。設定完了 [OK] をクリックして設定を保存します。

受信機ネットワークプロパティ

コンピュータ名: DESKTOP-D2JM92

ネットワークデバイス: 94-C6-91-F9-E6-68 (Device 8)

IPアドレス設定

☐ IPアドレスの設定(I)

IPアドレス: 0 0 0 0

サブネットマスク: 255 255 255 0

デフォルトゲートウェイ: 192 168 10 254

☒ IPアドレスを自動的に取得する(P)

DNS設定

☐ DNSを有効にする(D)

優先DNSサーバー(F): 0 0 0 0

代替DNSサーバー(H): 0 0 0 0

☒ 自動的にDNSサーバーアドレスを取得する(B)

管理者アカウントの設定:

☐ 管理者アカウントを追加する(A)

ユーザー名:

パスワード:

ドメイン設定

☐ ドメインに参加する(D)

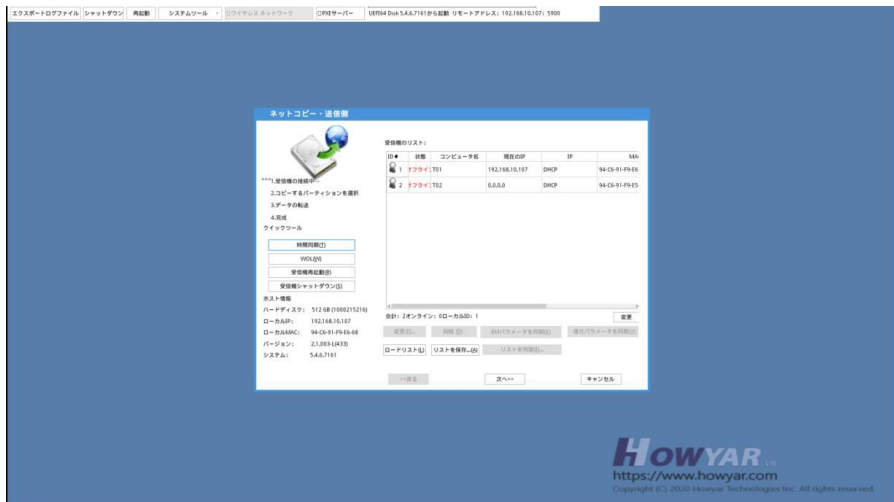
ユーザー名(I):

パスワード:

クリア OK

ステップ 3: ローカル ネットワークのセットアップが完了したら、クライアントコンピュータは、最初にシステムに入るときに 15 秒のカウントダウンウィンドウをポップアップし、動的復元ポイントを自動的に保存します。設定したネットワークプロパティを保存し、ドメイン参加操作を実行します。

8.7. ヘルプツールの説明



NetCopy には、一般的に使用される機能ボタンが用意されています。ログ情報のエクスポート、シャットダウン、再起動、WIFI、CD の取り出し、PXE サーバー、ブート...

ログ情報のエクスポート: プログラムの実行中にログ情報を USB デバイスにエクスポートします。このログ情報は、使用中に例外やエラーが発生した場合に、問題をより迅速に解決するのに役立ちます。

注意:

エクスポートされたログ情報は、挿入した USB デバイスの NetCopy ディレクトリに[Report] > [コンピュータの MAC アドレス]という名前の圧縮パッケージに格納されます。

- シャットダウン: コンピュータの電源を切る。

-
- 再起動:コンピュータの再起動。
 - WIFI:ワイヤレス ネットワークに接続する。
 - ディスクを取り出す:ディスクを使用して NetCopy を起動した後、このボタンをクリックしてディスクをディスクドライブから取り出します。
 - PXE Server:PXE サーバーの起動。
 - Boot From:NetCopy への現在のブート メディアを表示します。USBドライブ、ディスク、またはハード ディスクなど。
 - 時間同期:送信コンピュータの時間を受信コンピュータに同期する。
 - リモート ウェイクアップ:送信者の受信者リストでコンピュータを起動する。
 - 受信側の再起動:現在ログオンしている送信側の受信側コンピュータを再起動します。
 - 受信側のシャットダウン:現在ログオンしている送信側の受信側コンピュータをシャットダウンします。

9. 付 録

9.1 製品説明ツールの使用説明の復元

当社の復元製品をより有効に使用するために、ユーザーが使用するツールにはいくつかのツールがあります。

注意:

製品説明の復元ツールを実行するユーザーは、管理者グループのアクセス許可を持っている必要があります。

Vista および Windows7 オペレーティング システムで製品の復元を実行するツールは、UAC をオフにする必要があります。そうでない場合、復元ヘルプ ツールが実行されないことがあります。

9.1.1 パスワードを忘れた場合(Acmpwd.exe)

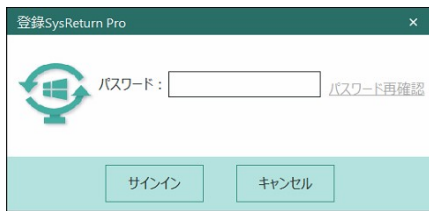
配置パス: 製品インストールのルートディレクトリ。

機能の概要:

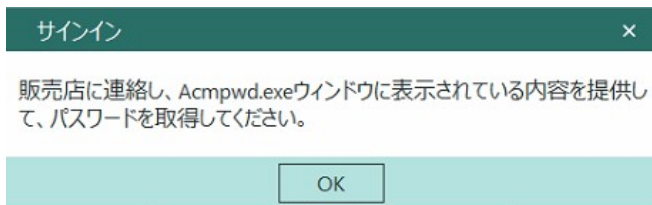
クライアントの ADMIN アカウントの演算パスワードを取得するために使用され、計算パスワードをディーラーに渡すだけで、クライアントの ADMIN のアカウント パスワードを見つけることができます。

【操作方法】:

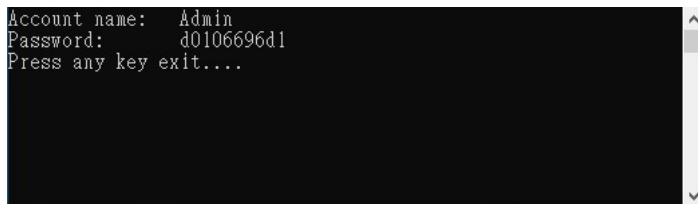
1. ライトグレーの「パスワード再確認」をクリックします。



2. プロンプト ウィンドウの [OK]ボタンをクリックします。



3. システムは Acmpwd.exe を実行し、ADMIN アカウントの計算パスワードを取得します。



4. 上記の計算秘密コード (Password の文字列)を流通業者に渡します。流通業者は、この計算秘密コードを使用して、クライアントの ADMIN アカウントパスワードを取得できます。

。

10. よくある質問

Q1. Windows にアクセスできない場合はどうすればよいですか？

A1:再起動し、<Home>+キーを押して、製品の DOS メイン インターフェイスに直接移動します。復元設定に移動し、[復元先]を選択→Windows の復元ポイントを選択→[OK]を選択すると、Windows は復元できます。

Q2 新たに 2 つ復元ポイントを作成しただけなのに、クライアントコンピュータの空き領域が不足しているという警告を表示しました。復元のための残りスペースが小さすぎる問題を解決する方法はありますか？

A2:

- I. クライアントをインストールするとき、保護のために十分な大きさの空き領域パーティションを選択します。
- II. システム パーティションを保護するだけでなく、残りの領域を保護するパーティションを追加します。
- III. モバイル保護パーティションの pagefile.sys ファイルを非保護パーティションに移動します。
- IV. 開始復元を更新するか、動的復元ポイントを削除し、動的復元ポイントによって占有されるハード ディスク領域を解放します。

Q3: ネット同期コピー送信側画面に「復元データをコピー選択」画面があり、増分データをコピーするためのオプションがグレー表示なのはどうしてですか？

A3:増分同期コピーは、送信側コンピュータと受信側コンピュータの開始復元ポイントが一貫している必要があることを前提としています。したがって、送信側コンピュータが受信側コンピュータの開始復元ポイントと一致していないと判断します。最初に同期コピーを実行してください。次回同期コピーを実行するとき、増分データのコピーオプションが選択可能になります。

Q4: 復元ソフトウェアのインストール後に電源オプションを変更して再起動すると、変更前の状態に戻ります。

A4: 新しい動的復元ポイントを保存し、正しく機能するために有効に設定する必要があります。

Q5 アンチウィルスソフトと共存できますか。

A5 はい、共存は可能です。ただし「SysReturn」をインストールする際は機能を停止させておくことをお勧めいたします。

Q6 Windows 上で表示される HDD の空き容量と、「SysReturn」の HDD 情報画面の数値が違います。

A6 「SysReturn」をインストール後の HDD の空き領域の容量計算方式は Windows と違いますので、「SysReturn」の HDD 情報画面を参照してください。

Q7 複数のレイヤー作成やレイヤー操作によってディスク容量が減少してしまった場合、どのように解消したらよいですか。

A7 基本レイヤーを更新するか、「SysReturn」をインストールしなおします。ハードディスクの空き容量に余裕が無い場合は、作成可能なレイヤー数を少なめに設定することをお勧めします。

Q8 ハードディスクは長時間操作によってフラグメントが発生し、Windows のパフォーマンスが落ちますが、「SysReturn」の保護対象としての領域を、デフラグする必要はありますか？

A8 「SysReturn」をインストールする前にデフラグを実行して、保護したい領域の最適化を行っておくことをお勧めします。その後「SysReturn」をインストールすれば、保護領域のデータと断片化状態がロックされるため、アプリケーションのインストール、アンインストールといった書き込みや削除を繰り返すことで生じた断片化は、「レイヤー選択」の操作でインストール時点(基本レイヤー)に戻って修復できます。

※デフラグの方法について

完全なデフラグメントという見地からいえば、いったんフォーマットし、Windows の再インストールから始めるのが理想的です。それが不可能な場合は、Windows 付属のデフラグメント・ツールを使ってデフラグ処理を行ってください。

※ デフラグとは、ハードディスク上の断片化されたファイルを連続した状態へ書き直し、ハードディスクのアクセス速度を向上させることをいいます。

※ 断片化とは、1つのファイルが HDD 上の複数の場所に分散され保存されている状態のことをいいます。アプリケーションのインストール、アンインストールといった書き込み、削除を繰り返すことにより生じます。

Q9 レイヤーをたくさん作成して保護領域の空き容量を圧迫すると、パフォーマンスの低下を感じることがありますが、どのように対処したらよいですか。

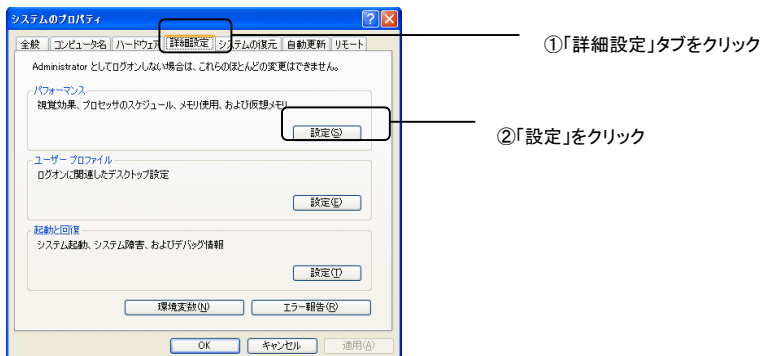
A9 仮想メモリを別の保護しないドライブに待避して、保護領域の空き容量を少しでも消費しないようにすると、システムのパフォーマンスが上がります。

<仮想メモリ回避方法>

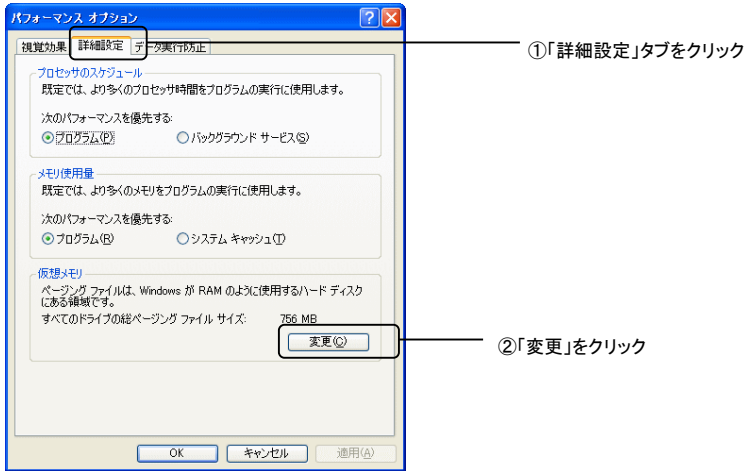
仮想メモリ用のページ・ファイル(スワップ・ファイル)を別の保護しないドライブに待避し、余計な保護領域の空き容量を消費しないようにすることができます。このページ・ファイルは、デフォルトでは搭載物理メモリ容量の 1.5 倍が確保されています。

以下では、システムドライブ(保護)が「C:ドライブ」、データドライブ(未保護)が「D:ドライブ」として説明しています(注:すべての操作は管理者権限で行ってください)。

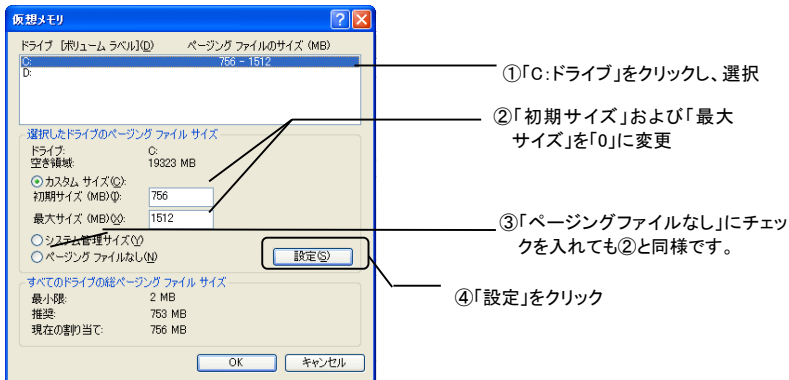
1. コントロール・パネルから「システム」>「詳細設定」を開いてください。または「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」>「詳細設定」タブをクリックします。



2. パフォーマンスオプションのダイアログが表示されるので、「詳細設定」タブをクリックし、続いて「変更」をクリックします。

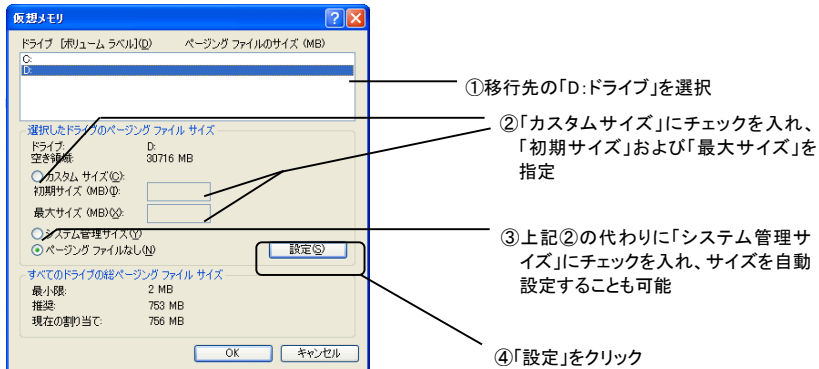


3. 「仮想メモリ」ダイアログ上部には、現在のページ・ファイルの状態が表示されています。「C:ドライブ」をクリックして選択し、「ページングファイルなし」にチェックを入れる、または初期サイズ、最大サイズにそれぞれ「0」を指定し、「設定」をクリックしてください。

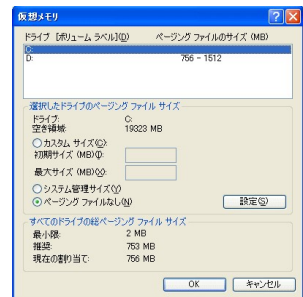


4. 次に移行先のドライブ「D:ドライブ」(未保護エリア)を選択し、「カスタムサイズ」の「初期サイズ」「最大サイズ」の空白欄に、「C:ドライブ」に設定してあったサイズと同様のサイズを指定します。または「システム管理サイズ」にチェックを入れ、システムに自

動でサイズを判断させることもできます。「設定」をクリックし、最後に「OK」をクリック、すべてのダイアログを閉じます。



5. ページ・ファイルのサイズや場所の変更を有効にするには、コンピュータを再起動しなくてはなりません。コンピュータを再起動後「仮想メモリダイアログ」を開くと次のように変更されていることが確認できます。



Q10 管理者パスワードを忘れてしまいました。どうしたらいいですか？

A10 個人情報漏洩防止のため、弊社では各ユーザー様のパスワードを管理・把握しておりませんので、引き続きソフトをご使用される場合は一旦アンインストール後、再度インストールする必要があります。しかし、アンインストールするにもパスワードが必要となってきますので、強制的にアンインストールしなくてはなりません。強制削除ツールをご希望の方は弊社までご連絡ください。

Q11 Windows が起動しなくなりました。

A11 「DOS 上のメイン操作画面の呼び出し方」を参考に、DOS 上のメイン操作画面を表示して、「修復」または「レイヤー選択」をお試し下さい。

Q12 SysReturn をインストール後、Windows が起動しなくなりました。

A12 「DOS 上でのアンインストール」の手順で、SysReturn をアンインストールしてください。
アンインストール完了後、弊社までご連絡ください。

Q13 「SysReturn」をアンインストール後、再度インストールしようとしたが、エラーになってインストールできません。

A13 Windows 上か DOS 上に、まだ「SysReturn」シリーズのプログラムが残っていて、完全にアンインストールできていない可能性があります。

DOS 起動が可能な「SR の削除ツール」を利用して、完全な削除を行うことができます。バージョンによって、削除ツールのバージョンも違います。お問い合わせする場合、メールにインストールした「SysReturn」のバージョンを明記してください。削除ツールをご希望の方は弊社 (GFJ) までご連絡ください。

Q14 「SysReturn」のアンインストールの途中で、動かなくなりました。

A14 PC をリセットし再起動してください。アンインストール作業が再開します。再開後も状況が改善しない場合、システムが破損している可能性があります。A13 を参照の上、削除ツールで「SysReturn」を削除してください。削除後 Windows が起動しない場合は Windows の再インストールを含むシステムの再構築が必要になります。

Q15 SATA のハードディスクでも使えますか？

A15 使えます。ただし、混在して使われている場合は、IDE のみが保護の対象になります。SATA のハードディスクを保護したい場合は、SATA のみで構成してください。また、ハードディスクが複数台接続されている場合、保護できるのはプライマリマスタのハードディスクのみです。2 台目以降は保護できません。

Q16 「BIOS 設定の保護モード」の BIOS 修復機能を「有効」に設定して、BIOS 設定の変更をしても、再起動のたびに修復することができません。

A16 「BIOS 設定の保護モード」の BIOS 修復機能は、CMOS に保存されている BIOS 設定情報を再起動するたびに修復する機能です。CMOS に保存されている設定情報の保存場所は、ほとんどの PC で共通していますが、中には通常と異なる場所に保存されている PC もあります。このような PC の場合、BIOS 修復機能が動作しません。BIOS 修復機能が正常に動作しない場合は、この機能を無効にしてください。

- Q17 「SysReturn」と、メーカー製パソコンに付属されているシステム回復用のバックアップの復元ソフトとの相性はどうなっていますか？
- A17 最近のメーカー製パソコンは、ハードディスクの大容量化に伴い、リカバリーデータをハードディスク内の隠し領域に保存している機種が増えています。ご使用のメーカー製パソコンに付属しているバックアップの復元ソフトと、「SysReturn」は、共に MBR/EFI に対して書き替えを行うことがありますので、バックアップの復元ソフトが機能しなくなる可能性があります。

SysReturn Pro Ver10 Client ユーザーズガイド

2023 年 7 月 1 日 第 4 版

発売元・製品サポート

株式会社グリーンフラッシュジャパン

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-22-2 神宮レジデンス 1F

TEL 03-5775-2585 FAX 03-5775-2586

URL: <http://www.gfj.co.jp>
